

# VIEW21

ビュー21

2012

Vol. 4

小学版

## 特集

# 学びに向かう力を伸ばす 新1年生指導

**総論** 上越教育大大学院准教授 **角谷詩織** / 新潟県上越教育大附属小学校副校長 **神村大輔** /  
新潟県上越教育大附属幼稚園副園長 **長谷川敬子**

**学校事例** 新潟県上越教育大附属小学校 / 東京都品川区立第一日野小学校  
福岡県田川市立金川小学校

**展望** 東京大大学院教授 **秋田喜代美**

北海道札幌市立稲積小学校校長 **池田悦子**

千葉県市原市立京葉小学校 **研修を授業改善につなげる工夫**

奈良県大淀町立大淀希望ヶ丘小学校 **保護者からの声掛けを増やし子どもの表現力を伸ばす**

私を育てた  
あの時代、あの出会い

パワーアップ!  
授業研究

つながる  
学校と家庭の学び



## 特集

3 **学びに向かう力を伸ばす  
新1年生指導**

4

総論

**幼児期の遊びを通した学びをつなげ  
「出来る」よりも「やりたい」思いを増やす**上越教育大大学院学校教育研究科 **角谷詩織** 准教授上越教育大附属小学校 **神村大輔** 副校長／上越教育大附属幼稚園 **長谷川敬子** 副園長

10

学校事例1

**「入門期」の1年生での多様な体験を通し、自ら動き学ぶ意欲を育む**

新潟県上越教育大附属小学校

14

学校事例2

**カリキュラムや授業構成を工夫し安心して自己表現できる居場所を作る**

東京都品川区立第一日野小学校

18

学校事例3

**家庭や学力の実態調査と家庭への働き掛けで一人ひとりの指導法を練る**福岡県田川市立金川かながわ小学校

22

展望

**挑戦的な課題や学び合いを通し  
学びに向かう力を育む**東京大大学院教育学研究科教授 **秋田喜代美**

## 連載

1

私を育てたあの時代、あの出会い

**初任校での挑戦の日々が教師としての土台を作ってくれた**

北海道札幌市立稲積小学校 校長◎池田悦子

26

パワーアップ! 授業研究

**研修を授業改善につなげる工夫**

千葉県市原市立京葉小学校

28

つながる学校と家庭の学び

**保護者からの声掛けを増やし子どもの表現力を伸ばす**

奈良県大淀町立大淀希望ヶ丘小学校

32

読者のページ Reader's VIEW / 編集後記

私を育てた  
あの時代、あの出会い

第11回

# 初任校での挑戦の日々が 教師としての土台を作ってくれた

北海道 札幌市立稲積小学校校長 池田悦子 IKEDA TSUKO

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、池田校長が語る。

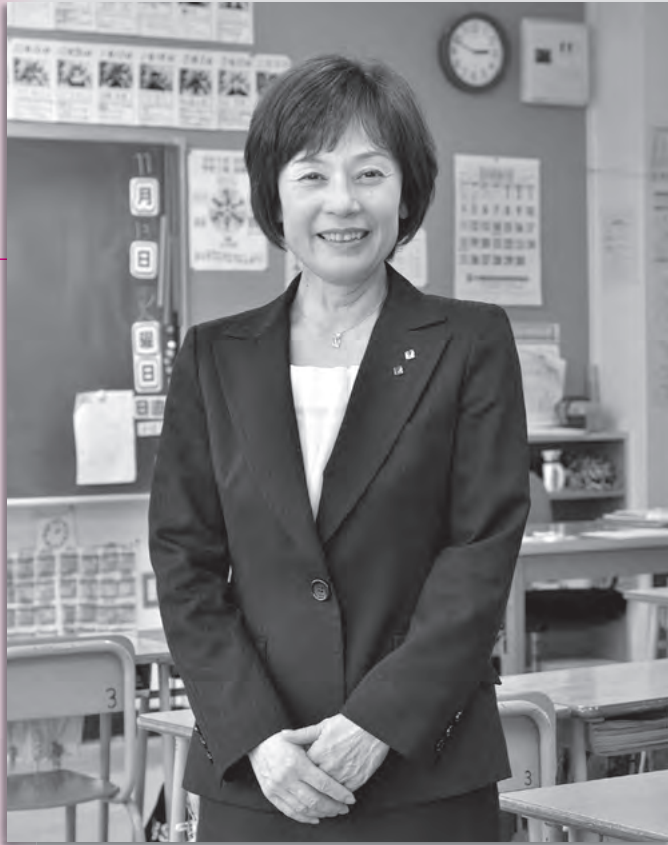
大切なことをつかみ取るまで  
新任の私を見守ってくれた

定年を控えて振り返ってみると、私は教師としての土台を初任校でつくったのだとつくづく感じます。それは、研究主任で図画工作が専門の金井秀男先生との出会いにありました。

1つめは、自分の目で見て、自ら学ぶ大切さです。教師1年目、私は3年生担任となり、金井先生が1・2年生を受け持った学級を引き継ぎました。ある日、金井先生が教室に貼られた子どもの写生を見て「担任が代わると、こんなに変わってしま

うのか」とひどく落胆されていたと人づてに聞いたのです。私は自分の指導力のなさに落ち込み、同時に、先生からなぜ直接言われなかったのか理解できませんでした。

その頃は今のようには初任者研修が整っていない時代で、先輩に「指導力の向上には、良いと思うものを自分で見付けて盗みなさい」とよく言われていました。私はその言葉通り、早速教室を全て回り、掲示物を見て、「好き」と思った絵を子どもが描けるように、子どもの思いを膨らませてから描かせるようにしました。当時の私は何も知らないのに意



いけだ・えつこ 専門教科は保健・体育。身体表現から発展して、絵画表現に関心を持ち、図画工作教育にも造詣が深くなる。現在は北海道造形教育連盟に所属。札幌市立西野第二小学校、札幌市立発寒小学校教頭などを経て、現職。

1975 (昭和50)

新採として札幌市立幌西小学校に赴任。金井秀男先生の影響を受ける



新採として赴任した当時の授業風景

1984 (昭和59)

札幌市立山の手南小学校に赴任。生活科に熱心に取り組む

1994 (平成6)

札幌市立円山小学校に赴任。総務・教務主任を務める

2003 (平成15)

札幌市立八軒北小学校に教頭として赴任

2006 (平成18)

札幌市立いなづみ幼稚園に園長として赴任

2010 (平成22)

前任園の修了児の多くが通う札幌市立稲積小学校に校長として赴任

My History

地だけはありましたから、誰にも聞かず、いろいろな先生のこれほど思う指導もひたすらまねしました。

しばらくして、金井先生が「こういう題で描くといいよ」「コンテをこう使うと表現しやすくなる」と声を掛けてくださるようになりました。試行錯誤の様子や教室の絵を見て、私が指導のコツをつかんだと思われたのでしよう。自ら学び取るまでじつと見守ってくれたのだと思います。

2つめは学びのあり方です。初任校では金井先生が考えた「四層学習」という方法で、1日を「たしかさ」「ゆたかさ」「たのしさ」「語らいと助け合い」と4つの時間に分け、ねらいに沿った教科と内容で授業をしていました。基礎学力を保障しながら、子どもの思いを大切にしたい学習を、生活リズムを重視した並びで進めていたのです。

月1回の研究授業では、教師全員で議論しました。率直な意見が飛び交い、新米の私はどの意見も良く思え、全部取り入れようとしてパンクしそうでした。ただ必死に考えを聞き、実践するうちに、金井先生の指導法の考え方が私の中に染み込んでいったのです。

子どもの思いを引き出し、表現させ、大きく育てる。私の指導の根底にはこの思いがあります。生活科では山に行き、自然の中で子どもの感性を揺さぶり、学級のルールは子どもに徹底的に話し合わせて自分たちで決めさせました。それは初任校で一生懸命に学んだことが深く影響していたのだと思います。

### 子どもの輝く笑顔のために 学校をつくっていききたい

金井先生は、私をもう1つの出会いに導いてくれました。課程移行期に勤めていた学校で、私は教務主任を務めていました。金井先生の実践を知っていた校長が、弾力的な運用が可能な期間に四層学習を生かした教育課程を組めないかと、私に相談したのです。久しぶりに初任校の研究紀要を読み返してみると、あの時から20年経っても、自分にその精神が息づいていることに驚くと共に、子どもにとって重要なことであり、再び実現させたいと強く思いました。

職員会議や部会で、戸惑う先生方と何度も話し合い、授業の進め方を提案していくうちに、先生方の意識が徐々に変わっていきました。授業

## 「子どもの思いを引き出し 大きく育てることが教師の役目」



を見に行くと、「たしかさ」では算数の基礎にじっくり取り組み、子どもが「分かった」という表情を見せていました。「ゆたかさ」では地域に出て調べ学習をするなど、興味を持ったこととことん取り組む子どもの姿が見られました。教師の意識が変わり、授業が変わり、子どもの学びが変わっていく——輝く笑顔を見せてくれる子どもを目の当たりにし、もっと学校をつくっていききたい、学校を良くしていききたいと思う

ようになったのです。

全校朝会では、私はいつも具体的なものを出して話をしています。読書週間の時は大型本や形の違う本を紹介し、学習発表会の前には教頭と寸劇を披露しました。子どもの思いを膨らませると共に、先生方がその輝きを見て、何かしたいという思いを持つてほしいからです。かつて私がそうしてもらったように、見守りつつも手本を示し、先生方の思いを支えていききたいと思います。

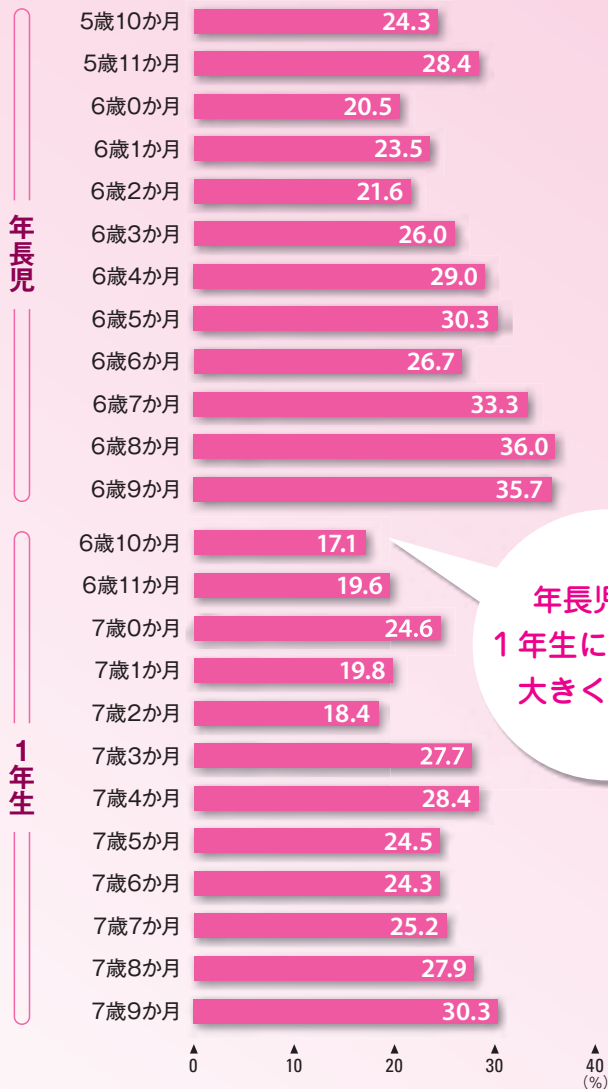


特集

# 学びに向かう力を伸ばす 新1年生指導

文字や数の獲得などに比べると伸長は見えにくいですが、「自分の気持ちを言う」「相手の意見を聞く」といった姿勢は、新1年生にまずは身に付けさせたいという声をよく聞く。  
今号は、そのような姿勢の土台となる力を「学びに向かう力」と定義し、幼児期から小学校1年生における指導を考えたい。

■人に自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができる割合



年長児から  
1年生になる時に  
大きく下がる

\*2012年1月時点で何歳何か月だったかを割り出し、月齢ごとに「とてもあてはまる」と母親が回答した割合  
出典／ Benesse次世代育成研究所「幼児期から小学1年生の家庭教育調査」(2012)  
調査方法は郵送法による自記式アンケート法。調査時期は2012年1～2月。調査対象は年少児～小学1年生のお子さまを持つ母親5016人

# 幼児期の遊びを通じた学びをつなげ 「出来る」よりも「やりたい」思いを増やす

子どもたちは保育所や幼稚園でどのような体験や学びをして、小学校に入学してくるのか。

そして、小学校は子どもたちの成長をどう受け止め、

どのような観点で指導すれば、小学校の学びへと移行できるのか。上越教育大の角谷詩織准教授と、

幼小接続の活動を進める同附属小学校の神村大輔副校長、同附属幼稚園の長谷川敬子副園長に話をうかがった。

## 保幼小接続のポイント

### 自由度の高い教育活動が

### 幼少期の子どもを伸ばす

——最初に、保幼小接続の取り組みを深めることがなぜ大切なのか、また、現在の取り組みが抱える課題などを、それぞれのお立場から聞かせていただけますか。

**長谷川** まず言えるのは、保幼小の接続が円滑でないと、小学校での教育的な効果が十分に望めないということです。幼児期には伸び伸びとした環境で自己肯定感を育むことを目指しますが、小学校に入学して慣れない環境やルールによって萎縮してしまうと、子どもはそれまで自信を持って出来ていたことでも

出来なくなってしまう。これはとても残念なことです。幼児期に育てた学びの芽を小学校が引き継いで伸ばしていくという考え方が、とても大切だと考えます。

**神村** 園児たちの姿を見ると、「こんなに伸び伸びと活動しているのか」と驚かされることがよくあります。園では最年長でリーダーとして動いていたのに、小学校では最年少となり、上級生に手伝ってもらって、給食を食べる、手洗いに行くというのでは、子どもは大きなギャップを感じるでしょう。そうならないよう、幼児期の「学び」を小学校でいかにつなげていくかは、重要な課題です。

児童と接していて感じるのは、幼少期の子どもの力を、教科の区切りを始めとした大

## 上越教育大大学院学校教育研究科

### 角谷詩織 准教授

すみや・しおり◎お茶の水女子大大学院人間文化研究科博士課程修了。お茶の水女子大大学院人間文化研究科助手を経て、現職。専門は発達心理学、教育心理学。



## 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

### 上越教育大附属小学校 神村大輔 副校長

かむら・だいすけ◎新潟県公立小学校教諭、長岡市立前川小学校校長、新潟県教育庁下越教育事務所指導主事などを経て、現職。

上越教育大附属小学校◎2012年度は「自分らしい生き方をつくる子ども」をテーマに校内研究に取り組む。児童数は459人。



人の考えた枠組みの中だけで伸ばしていくのは、難しいのではないかと感じます。1992年度に生活科が設置されたのも、そのような考え方が背景にあるからだと考えます。教科学習のあり方を捉え直し、可能な範囲で教科の枠を越えて自由度の高い教育活動を展開することが、子どもの学びの芽を伸ばすために必要ではないでしょうか。本校の教育は、そのような考えが原点となっています。  
**角谷** 現在の保幼小接続を巡る課題は、2つの方向から考えられます。1つは、いわゆる小1プロブレムです。これは、例えば、授業

中にじっと座ってられない、定位置の座席を嫌がるなど、園と小学校の環境やルールの違いから生じるものです。チャイムをなくしたり、座席を自由にしたりと、段差を滑らかにする工夫がされていますが、いまだ決定的な解決策は提示されていないのが現状です。ただ注意すべきなのは、小1プロブレムにかかわる段差が全て解決すれば、子どもの発達や学校への適応、学習意欲などが十分に促進されるかどうかは分かっていないことです。接続の問題を幼小の段差だけに求めると、見落としてしまうことがあるかもしれません。そこで、もう1つの課題として、小学校で幼児期に培われた力を伸ばしているかという観点で、保幼小接続を考える必要があると思います。これには、小学校の先生がいずれかの園に足を運んで幼児期の子どもを理解することが必要ですが、幼小双方が多忙ということもあり、深い交流を実現しているケースはそれほど多くありません。

#### 幼児教育の観点

#### 「遊び込む」体験から

#### 自己調整をする力が育つ

——2校が幼小接続を進められている上で大切にされていること、また幼児期と小学校での育ちの違いなどをお話してください。

**長谷川** 小学校で伸びる子どもを育てるため

に、本園では「遊び込む」ことを最も大切にしています。遊びから、言葉や数量、科学など小学校での学びにつながる芽が生まれるからです。例えば、ドングリが山のようにあっても、子どもは「数」を意識しません。しかし、ドングリに穴を開けてネックレスを作る遊びにすると、ひもを通すたびに「1個、2個、3個……」と自然に数え始めます。積み木を片付けるにしても、その過程には数量や形の概念が必要です。また、文字を教える時期はよく考える必要がありますが、紙粘土でクッキーを作っていた時に「クッキー屋さんの看

に、本園では「遊び込む」ことを最も大切にしています。遊びから、言葉や数量、科学など小学校での学びにつながる芽が生まれるからです。例えば、ドングリが山のようにあっても、子どもは「数」を意識しません。しかし、ドングリに穴を開けてネックレスを作る遊びにすると、ひもを通すたびに「1個、2個、3個……」と自然に数え始めます。積み木を片付けるにしても、その過程には数量や形の概念が必要です。また、文字を教える時期はよく考える必要がありますが、紙粘土でクッキーを作っていた時に「クッキー屋さんの看



#### 上越教育大附属幼稚園

#### 長谷川敬子 副園長

はせがわ・けいこ◎上越市立大手町小学校教諭、上越市教育委員会学校教育課管理指導主事、上越市立里小学校校長などを経て、現職。

上越教育大附属幼稚園◎2010年度から3年計画で「幼小の円滑な接続を促す幼児教育の推進」をテーマに文部科学省の研究開発学校指定を受け、研究を推進する。園児数は62人。



板を書きたいから字を教えてほしい」と子どもから求められたことがありました。このように、遊ぶ過程で自ら学んだことは、子どもの心に刻み込まれていくのです。

—— 幼児期に集中して遊ぶ経験が家庭学習につながるという結果もあります(図1)。

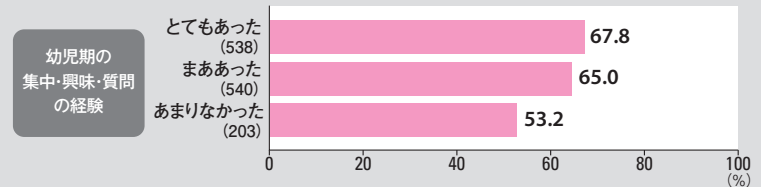
**角谷** 附属幼稚園と小学校の調査結果でも、幼児期にたっぷり遊んで学んだ子どもは、1年生の1学期時点での主体性や伝え合う力、社会性、協同性、集中力の発揮に結び付いていることが分かっています。遊ぶために友だちと話したり協力したりする中で、自己調整力などが次第に育つからです。また、遊びに興味を持って没頭している時、子どもは周囲の雑音があまり気になりません。これは、小学校に入ってから、課題に集中して取り組む力につながります。

**神村** 幼児期の学びは無自覚的であり、小学生では自覚的になるといいますが、長谷川先生のお話のように、遊びの中で自然に学んでいた子どもが、1年生になってすぐ自覚的な学びに切り替わるのは無理があると思います。

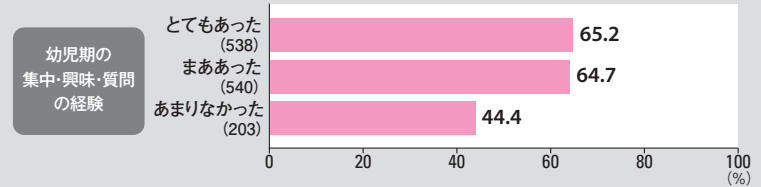
**長谷川** 本園では、「小学校からの学びの基盤となる力」と「実社会で生きてはたらく力

図1 小学1年生での家庭学習の様子と、幼児期の様子との関係

●机に向かったら、すぐ勉強にとりかかる(小1)



●勉強が終わるまで集中して取り組む(小1)

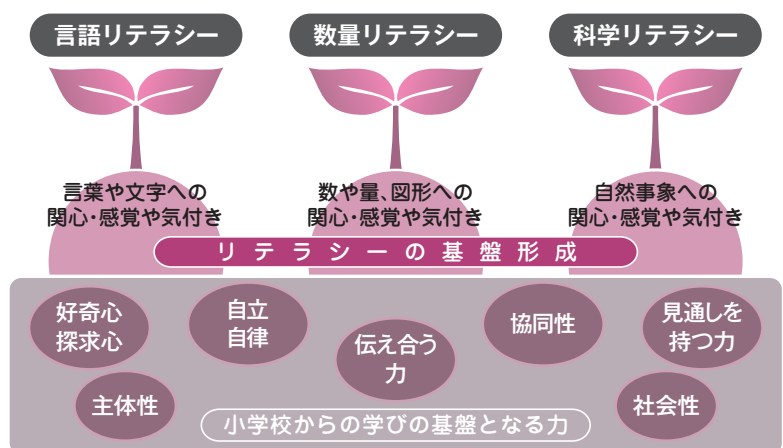


\*「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の% \* ( ) 内はサンプル数  
 \*幼児期の集中・興味・質問の経験は、幼児期の学習準備を振り返る3項目「好きなことに集中して遊んでいた」「生き物や植物に興味をもっていた」「わからないことについて、まわりに質問していた」について、「とてもあてはまる」を4点、「まああてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「ぜんぜんあてはまらない」を1点として算出し、平均点を3区分した。全て回答した人のみを分析  
 出典／Benesse 次世代育成研究所「幼児期から小学1年生の家庭教育調査」(2012)

(リテラシー)を整理し、先生が小学校への見通しを持って活動できるようにしています(図2)。小学校の先生が幼児期に学びの芽が育まれていることを理解されたいれば、感覚的な学びと自覚的な学びを行ったり来たりしながら、自覚的な学びに徐々に慣れさせることが出来るのではないのでしょうか。

**角谷** お二人の話から、改めて意識する必要があるのは、身体的・感覚的と言われる幼児期の学びと言語的・自覚的な小学校の学びの違いかと思えます。幼児教育では、「自分で

図2 上越教育大附属幼稚園が育もうとしている力



上越教育大附属幼稚園では、「リテラシー＝実社会で生きてはたらく力」と捉え、7つの力をその土台として育もうとしている。  
 \*上越教育大附属幼稚園の資料を基に編集部で作成



## 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

の刺激や自分の興味をコントロールして、集中して取り組む力のことですが、1年生の1学期にこそ強く求められる力だと思えます。例えば、1年生の学習内容は多くの子どもにとって理解が難しいものではありませんが、授業に付いていけなくなる子どもはいます。それは、学習内容に「つまづいている」のではなく、何色の鉛筆を使おうか考えていたり、落とした筆箱を拾っているうちに教科書のどこを見てよいのか分からなくなったりすることによる場合が多いのです。このようなことを考えても、自己調整をする力を幼少期に育むことが有効と考えます。

**神村** 私たちが子どもの頃は、日が暮れるまでとことん屋外で遊べる環境がありました。が、今の社会ではそれはなかなか難しくなりました。それと同じような体験を、学校がつくり出さなくてはならないと感じています。本校では、生きる力を育てるために、子どもが自ら考えて、友だちと一緒に、「ワクワクドキドキ」する体験を提供しています。自発的に活動して感動し、「毎日が楽しい！」と感じることが大切と考えるからです。

### 小学1年生の指導の観点①

#### 幼児期に「前倒す」ではなく 幼児期を「土台」と捉える

保幼小接続の取り組みを深めることで、

子どもどのような力が伸びるのでしょ  
か。

**角谷** 保幼小接続で大切なのは、何か新しい力を育てるのではなく、幼児期に培った力を無駄にせず、小学校教育につなげるという意識です。小学校で学ぶことを前倒しするのはなく、あくまでも幼児期を土台として考える。この時、「前倒し」と「土台」を混同しないように気を付けなければなりません。

一例ですが、1年生の4月に日記に難しい漢字を書く子どもがいますが、漢字が書けるからといって必ずしも表現が豊かとは限りません。子どもにまだ興味がないのに、保護者が幼児期に漢字を教えたのだとしたら、その時間で絵本に親しみ、手先を器用に使う遊びをする中で語いを増やす方が、小学校以降の教育で伸びる余地が大きくなると思います。

**長谷川** 幼児期から小学校低学年にかけては、「出来ること」よりも「やりたいこと」がたくさんある方が大切です。本園では、文字を教えるよりも、「伝えたい」気持ちを育てることを大事にしています。ある子は、卒園時に字があまり書けませんでした。小学校でとても上手に書けるようになりました。それは「伝えたい」という思いがあったからです。逆に、文字を詰め込みで習った子どもは、間違いを恐れてなかなか書けないことがあります。

成果ばかりを求めると、自分から動ける子

どもが育ちません。特に、幼児期はひらがなや漢字を書けるようにするより、保護者や先生とたくさん話すことで語いを増やすように意識してほしいと思います。

**神村** 小学校でも子どもの自尊感情を高め、「自分にはこんなすごいことが出来る」という気持ちを持たせることを大切にしています。そのような自覚があると、「総合的な学習の時間」などで自発的に学習に向かいます。1年生を「早く小学生にしよう」と考えるのではなく、不安や悩みを解消しながら、自分の良さに気付かせて徐々に育てていく教育を心掛けたいと思います。

### 小学1年生の指導の観点②

#### 子どもの力を信じて 待つことも大切

幼児期からの体験を小学校で最大限伸ばす指導の工夫についてご教示ください。

**神村** 特に1年生では、先生自身が伸び伸びと楽しむことも大切ではないでしょうか。先生の雰囲気は子どもにも伝わるからです。更に、教科書を淡々と教えるのではなく、

子どもの興味を引き出す要素をいかにちりばめるかも大事です。高学年の例ですが、ある先生は、「〇〇年に××合戦があった」という歴史的事実だけではなく、どのように攻め込んだのか、どれくらいの食糧を持っていつ



たのかなどを考えさせ、実際に保存食の煎り米を用意し、子どもに食べさせていました。教えたことを具体的にイメージできるようにすると、子どもは自分の生活体験と比べるなどして、自覚して学べます。

**長谷川** 今の例は具体的で、子どもが面白がって学べそうですね。待つのはなかなか大変なことですが、先生が子どもの力を信じて待つことも大切だと思います。そうすることで、子どもは考え、答えようとするからです。

**神村** おっしゃる通りだと思います。子どもの主体性を大切にすべき生活科も、結局、教える教科になってしまっていないか、再度、確認する必要があります。

**角谷** 気を付けなくてはならないのが、子どもはきちんと座って授業を受けて成績が良くても、必ずしも学ぶ意欲があるとは限らないということです。その要因の1つに、学習意欲や学習への意味付けが育まれていないことが考えられます。学ぶ意欲をどのように高めるのか、改めて考える必要があるでしょう。

#### 幼小互いへの期待

### 「おおらか」に一人ひとりの良さをもっと認める

——幼稚園が小学校教育に、小学校が幼児教育にそれぞれ期待することは何でしょうか。

**長谷川** 私は元々小学校教師ですが、小学校はもう少しおおらかでよいかもしれないと思っています。子どもが萎縮しないようにあまりルールに縛られず、一人ひとりの良いところをもっと認めるのです。また、保護者に読み聞かせをしてもらうなどの工夫をして、日常的に本を読むことも必要だと感じています。それによって、語いが増え、心を豊かにして、考える力が伸びていくからです。

**神村** 園では思い切り遊んでもらい、「やる気」を高めてもらうことを期待しています。

小学校では集団がより大きくなり、活動もダイナミックになって、大きな達成感を味わえる一方で、皆が少しずつ我慢するような自己調整力が必要です。そのような力も、幼児期に遊びを通して身に付くのではないのでしょうか。小学校としては、元気に入学してもらえることが一番大切です。

**角谷** 私は、園・小学校の双方に期待することとして、園児と小学生の交流以上に、先生同士の交流を挙げたいと思います。毎日の授業や保育がある中では難しいと思いますが、互いの授業や保育を見合い、話し合うなど、少しずつでも進むことを期待しています。

また、小学校の先生には、園が子どもを送り出す側として強いプレッシャーを感じていることを理解していただきたいと思っています。最近の傾向として、年長時の指導が厳しく、1年生の指導の方が緩やかという逆転現象があります。年長さんになるにつれ、園の先生が「最年長なんだから」「来年は小学生なんだから」と、子どもにより厳しく、いろいろな要求をしてしまい、小学生になってからの伸び伸びした様子に驚くというのです。一般に、幼児教育や保育にかかわる先生の方が保幼小接続に熱心なようですが、保幼小の先生方が互いに教育活動を見合うことで、そのような逆転現象も解消されていくのではないのでしょうか。

**長谷川** 管理職は、担任を支援すると共に、

# 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

環境を整え、保護者にしっかりと伝えることも大切だと思います。そして、何より重要なのが、**保幼小で教育観、子ども観を一致させる**ことです。接続先の先生方と、どのような気持ちで取り組むのかを根本的に話し合い、共有することが求められます。

## 保護者への期待

### 「昼間は担任が「保護者」 家庭と協力して育ちを楽しむ

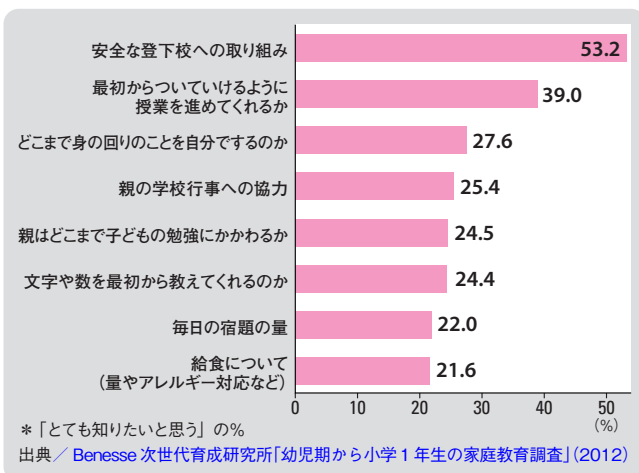
—— 入学に当たっては、保護者からの心配も  
あります(図3)。どのようなことを保護者  
に伝えるとよいでしょうか。

**神村** 私は、1年生の担任をしていた時、「昼間は保護者の役割をする」という気持ちでいました。そして、保護者には、共に子どもの育ちを楽しもうと呼び掛けていました。

保護者には、子どもがちょっとした失敗をしても、きつく叱らないように伝えていました。失敗して一番傷付いているのは、本人です。家に帰っても叱られてしまったら、立ち直れなくなるかもしれません。むしろ、「大人だって失敗はある」「自分もそういう失敗をした」と、共感する気持ちを子どもに伝えてほしいと言っていました。

**長谷川** いつも「大丈夫」と、大きく構える保護者であってもらいたいですね。子どもが心配していないことを、保護者が先回りをし

図3 保護者が小学校について知りたいこと(年長児)



て不安に感じていても良いことはありません。勉強についていけるか心配だからといって無理に教えては逆効果になることもあります。私は、文字を書けるかどうかよりも、「人の物を隠す・盗む」といった行動を改めるなど、子どもの本質的な問題に目を向けるように、具体的に保護者に伝えていきます(図4)。

**神村** 最近、気を付けないといけないのは、保護者がメールなどで連絡し合い、うわさが独り歩きしてしまいがちです。そうした場合、担任に相談し、また保護者として慎重に対応してほしいことをしっかり伝えておく必要があります。

**角谷** 小学校の学習への不安から、幼児期の

図4 長谷川先生が提案する保護者への呼び掛け

- ◎ 小さな頑張りを褒める。ちょっとしたことでも感激する(「うわ〜、いいね」「すごい!」)
  - ◎ 「ありがとう」と、今の数倍多く子どもに伝える。駄目なことは駄目と本気で叱る
  - ◎ 十分に出来ないことは、がみがみ叱らず、丁寧に教える(食事をこぼすなど)
  - ◎ 大人も基本的な生活習慣を守り、親子で本に親しむ
  - ◎ 他人の子どもを褒める・叱ることが出来るようにして、地域全体で子どもを育てる
- \*取材を基に編集部で作成

保護者は、小学校での学習内容を前倒して学ばせることも少なくありません。そうした保護者に対して、幼児期に育む必要のある力を、小学校側から伝えることも必要でしょう。また、保護者の小学校入学時の不安は、第一子の時が第二子以降に比べて断然大きいものです。これは「知らない、見えない」ことに不安を抱くからです。1年生の4・5月に授業を公開するなど、子どもの日常を保護者にも見えるようにすることで安心感が増します。家庭と連携し、1年生となる子どもが新しい環境に安心して自信を持って踏み出せるようにしたいものです。

—— 本日はありがとうございました。



# 「入門期」の1年生での多様な体験を通し、自ら動き学ぶ意欲を育む

## 新潟県 上越教育大附属小学校

動物の飼育や自然の中での体験など、総合的な教育活動を充実させる上越教育大附属小学校。活動を通して、みんなで学ぶ楽しさと、人間関係を育むことによって、学校生活にスムーズに入れるようにすることをねらいの1つとする。子どもに出来ることは任せることで、伸び伸びと学ぶ姿勢や意欲が育まれているという。

### 取り組みのねらい

- 20以上の幼稚園や保育所から児童が集まるため、入学時に友だちがいない子どもも多い。子どもの人間関係づくりを支えたい
- 高い関心や意欲を更に伸ばし、一人ひとりの力を最大限に引き出したい

### 取り組みの内容

- 1年生から体験的な活動を充実させ、学校で学ぶ楽しさや、教室に自分の居場所があることを実感させる
- 子どもの自主性を大切にして活動をさせ、「やれば出来る」という自信や前向きな姿勢を育てる

### 子どもの変化・成果

- 教師からの指示を待つ態度ではなく、子どもが自らやりたいことを見付けて取り組むようになった
- 学校で学ぶことの良さや楽しさを実感し、教科の学習にも前向きになった
- 子ども同士のかかわりが増え、仲間や居場所づくりが進んだ

#### 取り組みのねらい

#### 体験的な活動を通じて1年生の人間関係をつくる

上越教育大附属小学校の子どもは、附属幼稚園を含め、上越市内全域にある20以上の幼稚園・保育所から入学する。そのため、子どもが受けてきた保育や幼児教育が多様であることが課題だった。副校長の神村大輔先生は次のように説明する。

「自由保育や一斉保育など、方針はさまざまですが、それぞれ意義のある活動だと思えます。小学校では、異なる環境で育ってきた子どもをいかに受け入れ、一人ひとりの力を

#### S c h o o l D a t a

◎1902(明治35)年、高田師範学校附属小学校として開校。校内は豊かな自然に恵まれ、校庭の他に広い原っぱがある。2012年度の研究主題は「自分らしい生き方をつくる子ども」



校長 加藤雅啓先生

児童数 459人 学級数 12学級

所在地 〒943-0834 新潟県上越市西城町1-7-1

TEL 025-523-3610

URL <http://www.juen.ac.jp/element/>

公開研究会 2013年6月28日(金)、29日(土) 予定



# 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

伸ばしていく環境をつくり出すのが重要であると考えています。一人ひとりの力を発揮するきっかけづくりとして、自らが考えて対象に働き掛ける体験の充実を重視してきました」

同校の総合学習の研究は30年以上の歴史があるが、少子化が進む近年は、体験を通して人間関係づくりをいっそう重視している。幼少期から同世代とかわる機会が減り、友だちをつくるのがあまり上手ではない子どもが増えていると感じるからだ。指導教諭の関谷俊彦先生は次のように話す。

「本校の児童は多くの園から集まるため、入学時に友だちが1人もいない子どもが少なくありません。皆と一緒に活動に取り組み中で、打ち解け、仲良くなり、学校に自分の居場所を見付けてほしいと考えています」

1年生から体験を重視した「総合的な教育活動」を充実させ、子どもが小学校生活にスムーズに溶け込めるようにしている同校だが、1学年主任で総合単元活動主任も務める滝沢真紀子先生は、教師の意識にも課題があったと語る。

「以前は、1年生は何も出来ない、指導を1から始めなければという意識が強くありました。しかし、子どもは幼稚園や保育所でさまざまな体験をし、培ってきたものが多くあります。それを1年生でうまく受け継ぎ、更に2年生、3年生で伸ばせるようにしたいと考えました」

## 教育活動の考え方

\*同校の資料を基に編集部で作成

### 充実・発展期

論理的、総合的に考えたり、生き方を考えたりする時期

### 移行・拡充期

活動を広げながら、多様な追求方法を身に付ける時期

### 入門期

多様な体験を通して、学校生活に適応していく時期

### 心の活動

### 集団活動

### 総合教科活動

### 教科活動

### 集団活動

### 総合単元活動

### 教科活動

### 総合単元活動

### 教科活動

1年生

2・3年生

4・5・6年生

## 取り組みの内容

### 1年生の「入門期」を土台として6年間の学びにつなげる

同校の教育課程の特徴は、1年生を「入門期」、2・3年生を「移行・拡充期」、4・5・6年生を「充実・発展期」と位置付けて、教育活動を組み立てていることだ(図)。入門期は「多様な体験を通して、学校生活に適応していく時期」としており、そのねらいを主幹教諭の青木弘明先生はこう話す。

「教育活動の区切りを低・中・高学年とせず、1年生を入門期として独立させているのは、この時期が6年間の土台として重要な



上越教育大附属小学校副校長  
**神村大輔** かむら・だいすけ  
「子どもと共に活動し、力を最大限に発揮させたい。副校長として、全ての教職員の個性や能力を発揮させる」



上越教育大附属小学校  
**青木弘明** あおき・ひろあき  
主幹教諭。「子どもは自ら学び取ることが出来る有能な存在であることを大切にしたい」



上越教育大附属小学校  
**関谷俊彦** せきや・としひこ  
指導教諭。「子ども一人ひとりの喜怒哀楽に共感しながら、そばに居ることを大切にしたい」



上越教育大附属小学校  
**滝沢真紀子** たきざわ・まきこ  
1学年主任。総合単元活動主任。「一人ひとりの良さを大切に、子どもと共に学び、活動を充実させたい」



上越教育大附属小学校  
**黒岩昭伸** くろいわ・あきのぶ  
1学年担任。図画工作科主任。「子どもに寄り添い一緒に学び、共に笑い、共に泣く教師でありたい」

時期だからです。1年生で培った力を基にして、2年生以降は多様な力が身に付くように活動を広げていきます」

同校は、1〜3年生の「総合単元活動」と、4〜6年生の「総合教科活動」を総合的な教育活動の中核としている。総合単元活動では、動植物の飼育・栽培、活動の基地づくり、変身などの創作活動、探検など、子どもにとっ

て興味深い活動を行う。多様な体験を通して、教科学習でも重要な意欲を育み、人間関係を築き、落ち着いて学習に取り組めるようにする。そして、総合教科活動では、里山の暮らしや家畜の肥育、地場産業や町づくりについて体験を重ね、教科横断型の活動を行う。1〜3年生での学習・体験を受けて、今日的でより複雑な課題に取り組む。

特に、1年生は体験活動を充実させるため、総合単元活動に生活科、図画工作、道徳の内容を含め、総授業時数の3分の1以上の時間を充てる。また、授業を30分単位で区切り、チャイムを鳴らさないことで、教育編成の自由度を高め、活動の連続性を保っていることも、同校の特徴である。

### 教師は子どもの自主性を尊重し 自由な活動をサポート

2012年度、1年生の総合単元活動のテーマは、1組が羊を飼育する「もこもこぼくじょう」(写真1、2)、2組が原っぱで木箱などを使って遊び場を作る「つくってどんどん」(写真3、4)だ。教室で今日の活動の見通しを立て、屋外に出て活動し、教室に戻って振り返りを行うことが多い。

1組の「もこもこぼくじょう」では、4頭の羊を飼育している。担任の滝沢先生は次のようにねらいを説明する。

「羊との交流を通し、子ども同士がつなが

写真1 「もこもこぼくじょう」の様子。毎日、羊を小屋からえさのある原っぱまで連れて行く。授業前から率先して世話をする子どもが大勢いる



写真2 保護者に活動を知ってもらうために何をするかをクラスみんなで考える



写真3 「つくってどんどん」では、子どもがのこぎりやペンキを使って遊び場を作り上げる。教師は活動をサポートすると共に安全を確保する



写真4 原っぱで大きな木箱を見つけた子どもたち。自分たちで運べないと分かると、リヤカーを持ち出し、協力して運んでいた



り、学校を楽しい場所と感ずることを最も大切にしています。そのような気持ちで学ぶ意欲につながると思います。実際、『羊がいるから学校が楽しみです』と話す子どもが大勢います。飼育を始めてから約8カ月が経過した11月には、自分たちよりも体の大きい羊を巧みに誘導し、子どもだけで飼育小屋から原っぱまで行き来させる姿が見られた。最初は「こうしたい」と思っても、なかなか行動に移せないことが多かったが、子どもに任せる部分でだんだん増やしていくことで、次第に自分たちで考え、活動するようになったという。

「飼育を通して自分の行動を認められ、『やれば出来る』という自信を付けることで、『次

はこうしたい』という意欲が高まっています。この積み重ねが、主体性や協調性、社会性を育むのだと感じます。クラス全員が本気になる『向かえるもの』が学校生活の中心にあることは、子どもが小学校に適応していく上で非常に重要です」(滝沢先生)

一方、2組の「つくってどんどん」は、子どもが校内の原っぱにある木箱など(意図的に教師が置いたもの)を活用して、自分たちの遊び場「どんどんアドベンチャー」を作る活動だ。担任の黒岩昭伸先生は教師の役割を次のように話す。

「子どもの『もつとこうしたい』という気持ち大切に、教師はあくまでもサポート

## 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

役に徹してタイミングよく材料を提示するようになっています。子どもたちは感性が豊かで、やりたいと思っていることがたくさんあります。自由な活動を保障することで、自分から動き出す意欲や行動する力を育てていきたいと思えます」

4月には子どもがばらばらに遊ぶ姿が見られたが、徐々に子ども同士のかかわりが生まれ、遊びがつながり活動へと変化してきた。

滝沢先生も黒岩先生も、学校教育目標を意識しつつも、「この力をここまで伸ばす」とはあえて定めず、まずは創造力や行動力などを広く育むことをねらいとしている。

「総合単元活動の指導では、『到達目標』ではなく、『方向目標』を重視しています。元来1年生が持つ意欲を重視し、『こんなことに興味があるから、こういう力が発揮されそうだ』と察し、教育をコーディネートするのが教師の役割だと考えています」（関谷先生）

### 子どもの変化・成果 学ぶ楽しさや面白さを実感し 教科の学習にも前向きに

こうした自由な活動は、子どもが学校で学ぶことの良さや楽しさを実感し、国語や算数などの教科学習の前向きな姿勢にもつながっている。授業で聞く内容や課題に自らかわろうという意識が高いため、学年が上がっても自分の考えを述べる意欲を失わないとい

う。また、保護者からは、家庭でも学習に取り組む姿が多く見られるようになったという声が寄せられている。

「たっぷりのめり込める体験が学びの中心にあることで、自分がかかわりたい、表現したいという気持ちも他教科にも波及しているでしょう」（神村副校長）

総合単元活動の今後の展望として、子どもの言語活動や集団活動を教科や特別活動の視点から見つめ、活動の意味を明らかにしたいと考えている。更に、活動の自由度が高い分、図画工作や道徳の内容がきちんと含まれているかを、常に確認しながら取り組む必要性も感じている。

「長年行っていると、どうしても活動が似てきます。しかし、6年間の成長を考えた時に、『本当に、飼育するのは羊が良いのか』など、活動の意味を問い続けなければならぬと考えています。そして、目新しい対象に飛び付くのではなく、地味でも、子どもが各学年の発達上の特性によって成長するような活動を取り入れていきたいと思えます」（青木先生）  
そのためにも、教師が広い視野を持つことが必要だと強調する。

「目の前の子どもが大人になった時、どんな力が必要になるのかという見通しを持つことが大切です。そのためにも、私たちも社会に目を向け、いろいろな人とかかわり合って、自身を磨いていきたいと思えます」（関谷先生）

## 学校をつくり、動かすチームワーク

### 校長・副校長の役割

保幼小接続は、まず保育所・幼稚園と小学校が目的を共有しなければ動き出しません。最初に話を切り出し、保幼小が互いに接続のテーマやねらい、課題を考えられるようにすることを心掛けています。

具体的な内容は担当者に任せますが、担当者同士の意思疎通がスムーズにいかない時は、双方が歩み寄って合意形成し、連携できるように中心となって導くことも大切な役割だと考えています。

副校長 神村大輔先生

### ミドルリーダーの役割

自ら実践すると共に、保育所・幼稚園の研究にも深くかかわり、幼児期の様子をレポートなどにまとめ、小学校の先生方に伝えるようにしています。

また、子どもには「自ら学ぶ力」があります。教師はつつい自分がかかるルールに乗せようとしがちですが、「待つ」ことも必要です。しかし、待つことは難しいものです。子どもの力を信じて待つ姿を、他の先生方に示すことも、役割の1つだと考えます。

総合単元活動主任 滝沢真紀子先生



# カリキュラムや授業構成を工夫し 安心して自己表現できる居場所を作る

## 東京都品川区立第一日野小学校

品川区の保幼小連携モデル校である品川区立第一日野小学校。幼稚園や保育所との深い交流を通じ、保育の視点を取り入れた接続期のカリキュラムを作成し、45分の授業を15分ずつに分けた「モジュール授業」を取り入れるなどして、たくましく段差を乗り越えられる子どもを育てようとしている。

### 取り組みのねらい

- 「人、もの、こと」と深くかかわり、コミュニケーションをしたり、感動したりする力や姿勢を育てる
- 子ども一人ひとりの自尊心を育み、集団の中で自己表現できる力を培う

### 取り組みの内容

- 保育の視点をふんだんに取り入れたカリキュラムを作成
- 入学後5月くらいまでは15分ずつに分けた「モジュール授業」を取り入れ、徐々に45分授業に慣れさせる
- 保幼小の間で子ども同士、教師同士が人的に交流して深いつながりを持つ

### 子どもの変化・成果

- 生活面が安定して学習への姿勢を育む土台が培われた
- 子どもが集団の中で自分の居場所を見付けられるようになった
- 一人ひとりの子どもの良さをそのまま受け入れるなど、教師の子ども観が変化した

#### 取り組みのねらい

自尊心を育み、積極的に自己表現できる力を付けたい

施設が併設の幼稚園・保育所と一体型であり、近隣の保育所との連携にも力を入れる品川区立第一日野小学校。以前には校長が併設園の園長を兼任していたこともあり、早くから連携が盛んだった。2009年度から2年間、区の研究指定を受けて取り組みが加速し、現在は保幼小連携モデル校である。

研究指定を受けてから「豊かにかかわり合う子ども」が一貫した研究主題だ。研究主任の石田友貴先生は次のように話す。

#### S c h o o l D a t a

◎1878(明治11)年開校。2009年度から、品川区立第一日野すこやか園、品川区立西五反田保育園と保幼小連携に取り組む。10年に校舎を新設。芝生の校庭や120人収容のランチルームなどが特徴



校長 酒井敏男先生

児童数 459人 学級数 17学級(うち特別支援学級2)

所在地 〒141-0031 東京都品川区西五反田6-5-32

TEL 03-3492-6258

URL <http://school.cts.ne.jp/hino1/>

公開研究会 2014年1月24日(金) 予定



# 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

図1 スタートカリキュラム【保育園・幼稚園からの育ちを受けて】

(4月分から一部抜粋)

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 子どもの姿    | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活への期待感や学ぶ意欲をもって登校している</li> <li>新しい環境に戸惑いを持っている</li> </ul>             |  |
| ねらい      | <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい友達や学校生活に慣れる</li> <li>整理整頓、集団行動の仕方を知る</li> <li>生活や遊びのマナーを知る</li> </ul> |  |
| 主な経験する内容 | 生活  | <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校での朝の支度、帰りの支度の仕方を知る(連絡帳、教科書など)</li> <li>手紙の配り方、折り方、連絡帳袋へのしまい方を知る</li> <li>トイレ(和・洋式)の使い方、流し方を知る</li> <li>トイレや水飲みは休み時間に済ませることを知る</li> <li>靴箱、ロッカー、道具箱のしまい方を学ぶ</li> <li>あいさつ、返事の仕方を知る</li> <li>廊下の歩き方、並び方(背の順、出席簿順)を覚える</li> <li>給食の配膳、片付け、食べ方、手洗いの仕方を知る</li> <li>日直、係・当番活動の仕方を知る</li> <li>素早く衣服の着脱が自分でできる(健康診断に向けて)</li> <li>防災頭巾のかぶり方、しまい方を学ぶ</li> </ul> |
|          | 学習  | <p>《聞き方》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いすに座って目を見て聞く</li> <li>全体に話していることを自分のこととして受け止めて聞く</li> <li>最後まで聞く</li> </ul> <p>《話し方》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な返事</li> <li>伝えたい事を話す</li> <li>聞こえる声で話す</li> <li>手を挙げてから自分の意見を言う</li> </ul> <p>《ひらがな、数字の学習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しい鉛筆の持ち方を意識し、筆順を正しく覚える</li> </ul>                                  |
|          | コミュニケーション   | <ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちのよいあいさつをする(笑顔、ありがとう、相手に聞こえる声)</li> <li>返事の仕方「はい、～です」を学ぶ</li> </ul>   |

\* 同校の資料を基に編集部で作成

「教科学習が得意でも、人や物事に深くかわり、感動したり、友だちと協力したりできなくては、子どもは十分に育たないのではないか。そのような考えから、保幼小の連携を通して、多様な人間関係の中でコミュニケーションを取ったり、物事への関心を高めたりする教育を研究しています」

取り組みの合言葉は「子が育ち、親が育ち、教師が育つ」だ。酒井敏男校長はこう話す。

「今は人間関係が希薄化しつつあります。そのため、学力の定着を中心にした従来の教育からの転換が必要だと考えます。子どもだけでなく、保護者や教師がつながりを深めながら共に成長し、居場所や自尊心、集団の力を高める教育を志しています」

保幼小連携では、1年生が乗り越えられる

「段差」にすることを意識している。「子どもがつまづかないことは大事ですが、段差をなくせばよいわけではありません。私たちが育てたいのは、段差をたくましく乗り越えられる子どもです」(酒井校長)

研究前は、積極的に自分を表現できないことを1年生の課題と感じていた。そこで、保幼小連携では豊かな表現力を育むことも大きな目的としている。

**取り組みの内容**

**目前的子どもの姿から**

**接続カリキュラムを作成**

特に力を入れる取り組みは、接続期のカリキュラム作成だ。5歳児は「アプローチカリキュラム(9〜3月)」、1年生は「スタート

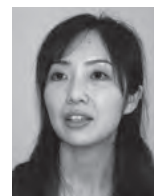
カリキュラム(4〜7月)」を作成し、園から小学校に無理なく移行できるようにしている(図1)。カリキュラム作成では、目の前の子どもの姿から考えることを重視する。

「1年生の実態を踏まえ、『こういう姿があるから、このように育てたい。そのためには、どのような力を付ける必要があるのか』というように具体的な手立てを考えていきました」(石田先生)

保幼小と小学校のカリキュラムの連続性を意識し、難易度や成長・発達を適切につなげることも重視。保幼小の教師が互いの保育・授業を参観したり、子どもの育ちについて話し合ったりして一つひとつの内容を検討した。その結果、スタートカリキュラムには保幼小の先生の考えが細かい点にも反映されている。



品川区立第一日野小学校  
**中村真由実** なかむらまゆみ  
 研究副主任。1学年担任。「自分の考えに固執せず、周囲の意見をよく聞く。その大切さを子どもにも伝えたい」



品川区立第一日野小学校  
**石田友貴** いしだゆうき  
 研究主任。6学年担任。「子どもと一緒に常に自分を振り返って、成長し続けられる教師になりたい」



品川区立第一日野小学校校長  
**酒井敏男** さかいとしお  
 「学校は良いところ」と感じてもらうことが一番。また、鍛えない個性は野性。子どもを鍛えて個性を伸ばす」

図2 入門期の時間割

| 4月15日(入学後8日目)            |              |  |
|--------------------------|--------------|--|
| ①<br>8:50<br>~<br>9:35   | 生活科<br>(15分) | ◎ともだちになるうよ<br>・森のくまさんの曲に合わせて友達と自己紹介をする         |
|                          | 国語<br>(30分)  | ◎ひらがな<br>・鉛筆の持ち方、姿勢、正しい書き順を知る                  |
| ②<br>9:40<br>~<br>10:25  | 体育<br>(45分)  | ◎かけっこ<br>・集団行動を知る「まわれ右」(右手方向に回る)<br>・手つなぎおにをする |
|                          | 算数<br>(30分)  | ◎かずのなまえ<br>・数の読み方と書き方を知る(1~5)                  |
| ③<br>10:45<br>~<br>11:30 | 図工<br>(15分)  | ◎どうぶつ作り<br>・粘土を1つの大きな塊にする                      |
|                          | 図工<br>(30分)  | ◎どうぶつ作り<br>・粘土の塊からひねり出して動物の形を作る                |
| ④<br>11:35<br>~<br>12:20 | 市民科<br>(15分) | ◎身の回りの整理整頓<br>・粘土、粘土板のしまい方を知る                  |

\* 同校の資料を基に編集部で作成

例えば、プリントを配布する際、以前は自分の分を取って後ろの席に渡すようにしていたが、それをうまく出来ない子どもがいて、授業が滞っていた。それを知った保幼の先生から、園では後ろではなく、横の人に渡していると伝えられ、同様の方法にすると配布がスムーズになったという。

また、入学後の1カ月〜1カ月半は、45分間を15分のモジュールに分けて活動を組んでいる(図2)。歌や手遊びなどリフレッシュタイムは15分、国語や算数は30分、夢中になりやすい体育や図工は45分など、子どもの集中力に合わせてモジュールを組み立てる。

「最初から45分の授業は難しく、徐々に慣れるために導入しました。1年生は学ぶ習慣を身に付ける期間であり、学校になじめなく

て脱落したり、意欲を失ったりするのは本意ではありません。子どもが飽きているのを子どもの責任にせず、学校が子どもの実態に合わせても必要だと考えます」(酒井校長)

モジュールを取り入れてから、子どもの学習姿勢は目に見えて前向きになった。1学年担任の中村真由実先生はこう語る。

「45分だと集中力が途切れていたのが、15分や30分では『まだやりたい』という思いが残り、わくわくして次の授業に臨めるようです」

園での活動を参考にし、マペットを使った指導も取り入れた。先生とマペットが会話をする演技をし、話の聞き方などを教えている。

「マペットで相手を見ない聞き方の例を見せると、子どもから一斉に『話を聞く時は相手の目を見るんだよ』と声が上がります。1年生は感情移入しやすいため、注目してほしい時に有効な方法です」(中村先生)

### 子どもと保護者がかかわる きっかけとなる宿題を設定

子どもと共に保護者の成長も目指し、家庭との連携にも力を入れる。12年度には「宿題カード」を始め、子どもが宿題に取り組む様子を毎日、保護者に記録してもらっている。

「保護者には『こんな勉強を頑張りました』『ここが苦手そうなので一緒にやりました』といったコメントをいただきたい

ています。カードを通して、学習内容を保護者が把握できるのも利点です」(中村先生)

宿題は1日10分を目安とし、学習に限らず、「肩たたき」「上履き洗い」「リボン結び」といったことも出す。入学式の日の宿題は、「担任の先生の名前を覚える」だった。

「忙しい保護者が、子どもとかかわるきっかけとなるような宿題にしています。入学式の日の宿題は、小学校の宿題は学習だけではなく、園生活の延長にあることを感じてほしいと思って設定しました」(中村先生)

人的交流も、保幼小連携の大切なテーマだ。子ども同士では、年4、5回、5歳児と1年生が一緒に遊んだり、園児が小学校生活を体験したりしている。5歳児にとっては小学生に憧れを抱いて小学生になるのが楽しみになり、1年生にとっては年下の子どもへの責任感や配慮が育まれるといったねらいがある。

「園児の頃から、入学式を行う体育館に何度も訪れるため、小学校への不安が和らいでいきます。小学校を就学前からいつでも来られる場所にしたいと考え、園に施設を使ってもらったり、校庭を地域に開放したりしています」(酒井校長)

教師の交流では、互いの保育・授業を参観する、小学校の教師が園を訪れて1日保育を体験する、月1回校長と園長が打ち合わせをして情報交換をするなどの機会がある。

「正直に言うと、最初に幼稚園を訪れた時

## 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

はただ遊んでいるようにしか見えませんでした。しかし、保育への理解が進むにつれ、実は遊びにはそれぞれ意味があり、幼保の先生方が工夫して環境を整えたり、言葉を掛けていることに感じ入りました」（石田先生）

### 子どもの変化・成果

#### 生活面が安定すると共に どの子どもにも居場所が出来る

これらの取り組みの第一の成果は、子どもが落ち着いて過ごし、給食がスムーズに取れるようになるなど、生活面が安定したことだ。それが土台となり、学習への姿勢を育みやすくなったという。また、高学年になると次第に学力差が開いてくるが、交流によって異学年がつながり、互いに学び合う姿勢が育まれているため、どの子どもも集団の中に居場所を見つけられるようになった。

「自己表現を出来ることが、居場所づくりには欠かせません。1年生ではまず自分の考えを持ち、先生に意見が言えることがスタートです。自分の思いを表現できる学級をつくらうと、先生方に話しています」（酒井校長）  
家庭との密な対話を心掛けることにより、心配事を早めに担任に伝える保護者が増え、ボランティアへの参加率も高まった。

そして、合言葉の最後にあるように、教師も成長している。特に保育の視点を取り入れたことで、子どもの見方が変わったという。

「研究授業では、今まで子どもの様子よりも教師に注目していましたが、連携が深まってきたから『子ども一人ひとりにどんな意味があるのか』という視点で見られるようになりました。保育を参考に、授業中の言葉の掛け方や子どもが見やすい掲示など、さまざまな面を見直しました」（中村先生）  
教師に、子どもの個性をそのまま受け入れようとすると態度が見られるようになったことも大きな変化だ。

「以前は、小学生としての色付けをするために、入学時は『ゼロ』から始めることを無意識に目指していたと思います。今は、子どもには入学時からさまざまな色があり、一人ひとりの良さを認めながら私たちの目指す子ども像に向けて色を付けていこうと考えられるようになりました」（酒井校長）

今後は、縦のつながり（学校種や学年、また学習系統）と、横のつながり（人、もの、こと）を連動させて子どもを更に伸ばしていくカリキュラムへと改善していく考えだ。

品川区は学校選択制のため、12年度は16園から入学者が来た。現在は特定の園のみの連携を他園にも広げて、現状の点と点から面へとつながりを広げることも課題の1つだ。

「保幼小連携の取り組みをより充実させてつながりを強化すると共に、それぞれの学校の質を高め、『いつも前向きに生きる子ども』を育てていきたいと思えます」（酒井校長）

## 学校をつくり、動かすチームワーク

### 校長・副校長の役割

保幼小連携は「哲学」がぶれてしまっはうまくいきません。常に哲学を念頭に置き、それを事あるごとに先生方に話すことは、校長の役割だと思います。園との関係づくりも大切にしています。特に心掛けているのが、園から見て小学校の敷居が低く感じられるようにすること。そのために、施設が空いている時は自由に使ってもらっています。また、併設園に1日1回は顔を出し、気軽に話し合えるようにしています。

校長 酒井敏男先生

### ミドルリーダーの役割

管理職の先生が方針を出した際、分かりにくいことがあれば、明確になるまで説明を求めるのが、研究主任の役割の1つだと考えます。校長先生の話が分かりにくければ「分かりません」と言うようにしています。若手の先生方が研究の意味を理解するのは大変ですが、意味が分からないまま研究しても実にはなりません。しっかり質問し、私自身も悩みながら追求している姿を、若い先生方に見せたいと考えています。

研究主任 石田友貴先生



# 家庭や学力の実態調査と家庭への働き掛けで一人ひとりの指導法を練る

## 福岡県 田川市立金川小学校

田川市立金川小学校では、就学前に保護者に調査を行い、入学してくる子どもの幼児期の実態を把握。入学後に学力を見取って相関を分析し、子ども一人ひとりの課題を克服する教育活動を展開している。データに基づいて、保護者に家庭での子どものかかわり方を具体的に伝えるようになった。それらの結果、学力向上など成果は目に見える形で表れている。

### 取り組みのねらい

- 学力や生活態度の差を小さくし、小1プロブレムを解消する
- 保護者が子どもに深くかかわれるように導く

### 取り組みの内容

- 入学予定者全ての保護者を対象に就学前調査を行い、入学してくる子どもの育ちを捉える
- 入学後、学力査定や二者面談を通し、子どもの成長を把握。就学前実態調査の結果と合わせて、一人ひとりへの指導法を練る
- 保護者と連携し、学力向上などにつながる体験を家庭で実践してもらう
- 地域の幼稚園・保育所との連携を強化する

### 子どもの変化・成果

- 学力検査の結果が4～5ポイント向上した
- 子どもが落ち着いて授業に集中するようになった
- 保護者の学校への信頼が高まり、協力体制が整った

#### 取り組みのねらい

保護者の関心は高いが近年は二極化が顕在化

田川市立金川小学校は、かつて炭鉱で栄えた地域を校区に含む。1960年代以降、炭鉱の閉山が相次ぎ、経済的に厳しい家庭は今も少なくない。

現在の教育活動は、90年に行った県の調査が1つのきっかけで始まった。その調査では、生活保護などの経済的支援を受けている家庭の子どもは、受けていない家庭に比べ、学力が低い傾向があることが明らかになった。要因が特に家庭での保護者のかかわりに見られ

#### S c h o o l D a t a

◎1874(明治7)年、寺子屋を仮教場として開校。「生きる力を育む、学校・家庭・地域の協働による教育の総合化」をテーマに、家庭や地域と連携し子どもを育む教育活動を研究する。



校長 中川真一先生

児童数 345人 学級数 15学級(うち特別支援学級3)

所在地 〒825-0005 福岡県田川市大字糺1771

TEL 0947-44-1183

URL <http://kyouiku.joho.tagawa.fukuoka.jp/HPKNGS01/index.html>

公開研究会 未定



# 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

たことから、同校は子育て講座などを積極的に展開し、保護者との連携を柱の1つとしている。ただ、近年、以前とは異なる課題が顕在化していると、熊谷正敏先生は話す。

「当時から保護者は教育に関心がありませんが、子どもにどうかかわればよいのか分からないようでした。子育て講座などを通して次第に積極的に接するようになりましたが、子どもに深くかかわる保護者と、そうではない保護者の二極化が進んでいます」

子どもは全体的に落ち着き、大人の言うことに素直に耳を傾ける。しかし、以前は入学時の生活態度や学力の差が大きく、いわゆる小1プロブレムを抱える子どももいた。21園から新入生を迎えることもある同校では、家庭環境と子どもの成長を丁寧に把握することから始めている。

## 取り組みの内容

### まずきちんと言話を聞けるようになることが重要

入学する子どもの家庭環境を明らかにするために、2002年に始めたのが「就学前実態調査」だ。校区外を含み、幼稚園・保育所の協力を得て、入学予定者の全ての保護者を対象に記名式で行う。「朝起きて顔を洗った、歯を磨いたりしていますか」「絵本の読み聞かせをしましたか」など約50項目ある。この調査と両輪の関係にあるのが、1年生

の4月と12月に実施する「学力査定」だ。教師が日々の学習状況や二者面談を通し、国語、算数、コミュニケーションの3領域について、学力や態度の実態を見取る。今や、就学前実態調査と学力査定の間を分析したデータは、指導に欠かせないものとなった。具体的に説明しよう。

就学前実態調査の「出来事を話す」「話を聞ける」を見ると、「出来事を話す」が出来る子どもは学力査定と有意な関連を示す項目が少なく、関連も弱かったが、「話を聞ける」は学力査定と有意な関連を示す項目が多く、関連が強かった（P.20図2の網掛け部）。

「子どもは『話を聞いてもらうことは心地よい』と体験することで、相手の話を聞くという気持ち芽生えてきます。ですから、保護者には、学力を付けるためにはまずきちんと話を聞けるようになることが重要だと伝えていきます」（熊谷先生）

また、「お絵かき」などでも学力との関連が認められた（P.20図2の網掛け部）。

「お絵かきや紙工作では道具の準備など手順を考える必要がありますから、筋道を立てて考える力の素地になっているのではないかと分析しています」（熊谷先生）

項目ごとの関連には経年変化がほとんど見られないことから、同校では学力や意欲への影響が大きいものを「基本的な生活習慣」「話を最後まで聞く力」「人とのコミュニケーション

図1 子どもを育てる4つの習慣や体験

#### 基本的な生活習慣

- ・朝起きたらあいさつする
- ・顔を洗う
- ・歯をみがく
- ・朝ごはんを食べる
- ・自分のことは自分でできる

#### 話を最後まで聞く力

- ・相手の話を最後まで聞く力が、学習したことが身に付くかどうかということと深く関係しているようです

#### 人とのコミュニケーションを伴った遊び体験

- ・コミュニケーションを伴った遊び体験の中で、数概念や言語が獲得され、幼児期からの確かな学力の土台を形成します

#### 大人の意識的な関わり

- ・絵本の読み聞かせを日課にする
- ・茶碗やお皿を声に出して数えて並べる。といった、大人の意識的な関わりが、子どもの確かな育ちを支えます

\*同校の資料を基に編集部で作成



田川市立金川小学校  
木村恭子 きむら・きょう子

指導方法工夫改善担当。「何歳になっても熱い指導をし、子どもが驚きや喜びの声を上げる授業をつくってほしい」



田川市立金川小学校  
熊谷正敏 くまがえ・まさとし

人権・同和教育担当。「子どもや保護者に誠実に向き合っているかを常に振り返ることを大切にしている」



田川市立金川小学校校長  
中川真一 なかがわ・しんいち

「子どもの笑顔と出合えることが教師の喜び。身の回りの人や物、自分の故郷や国を愛する子どもを育てたい」

ンを伴った遊び体験」「大人の意識的な関わり」の4つに整理した。具体的な対応をまとめ、それを保護者に伝え、家庭での過ごし方の参考にしてもらっている（図1）。

近年は語い力が課題と感じられるため、11

図2 就学前実態調査と学力査定の一覧表（抜粋）

|     |             | 生活習慣 |          |   |        |        |      | 生活態度 |        |        |    |     |        | 遊び体験   |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
|-----|-------------|------|----------|---|--------|--------|------|------|--------|--------|----|-----|--------|--------|-------|------|--------|------|------|-----|-----|------|--------|-----|--------|------|------|
|     |             | 1    | 2        | 3 | 4      | 5      | 6    | 7    | 8      | 9      | 10 | 11  | 12     | 13     | 14    | 15   | 16     | 17   | 18   | 19  | 20  | 21   | 22     | 23  | 24     | 25   | 26   |
|     |             | 朝食   | 食べ物が好き嫌い | 箸 | 食事のテレビ | ビデオDVD | なる時刻 | あいさつ | 洗顔・歯磨き | 自分で起きる | 自立 | がまん | 約束やきまり | 出来事を話す | 話を聞ける | しりとり | トランプ双六 | ままごと | お絵かき | 紙工作 | みつつ | 口ウソク | アナログ時計 | シュー | 買いもの体験 | 本を選ぶ | 高い高い |
| 50  | 数の基礎        |      | ○        |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        | ○      |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 51  | 1対1対応       |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 52  | 順位性         |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 53  | 基数性         |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 54  | 序数詞(本匹枚)    |      |          |   |        |        |      | ○    |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 55  | 天秤課題        |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 56  | 時計課題        |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     | ○      |        |       | ○    |        |      |      |     |     |      |        | ○   |        |      |      |
| 57  | 誕生日課題       |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     | ○      | ○      | ○     |      |        |      |      |     | ○   |      |        |     |        |      |      |
| 58  | 貨幣課題        |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        | △    | △    | △   |     |      |        |     |        |      |      |
| 59  | 集合の大小       |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 60  | 集合の計数       |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 61  | 2つの数の比較     |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 62  | 大きい方から      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 63  | 集合の加算       |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 64  | 5の補数        |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 65  | 10の補数       |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 66  | 算数合計(15~60) |      | ○        |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 67  | 基礎          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 68  | 鉛筆のもちかた     |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 69  | 運筆・筆圧       |      | ○        |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 70  | しりとりができる    |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 71  | あいさつ        |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 72  | 身の回りのモノ     |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 73  | 対義語         |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 74  | 気持ち         |      | ○        |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 75  | 語彙の合計       |      | ○        |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 76  | 読む          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 77  | 名前が読める      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 78  | 名前が書ける      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 79  | 読む          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 80  | 書く          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 81  | 名前が読める      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 82  | 名前が書ける      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 83  | 読む          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 84  | 書く          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 85  | 名前が読める      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 86  | 名前が書ける      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 87  | 読む          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 88  | 書く          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 89  | 名前が読める      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 90  | 名前が書ける      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 91  | 読む          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 92  | 書く          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 93  | 名前が読める      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 94  | 名前が書ける      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 95  | 読む          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 96  | 書く          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 97  | 名前が読める      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 98  | 名前が書ける      |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 99  | 読む          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |
| 100 | 書く          |      |          |   |        |        |      |      |        |        |    |     |        |        |       |      |        |      |      |     |     |      |        |     |        |      |      |

表は、縦軸に学力査定の評価項目、横軸に就学前実態調査の評価項目を示し、その関係性を4つの記号で表した。○…5%水準で有意性が認められたもの、◎…1%水準で有意性が認められたもの、△…5%水準で負の相関にあるもの、▽…1%水準で負の相関にあるもの  
\*同校の資料を抜粋して編集部で作成

年度に学力査定の内容の言語領域の項目を変更し、身の回りの物の名前や感情を表す表現などの理解度を調査している。その結果、例えば「しゃもじ」の存在は知っているが、名前を答えられない子どもが多いことが分かった。「家庭で使っているのに答えられないのは、

意識して名前を口にしなからだと考えられます。保護者には『しゃもじを取って』と言うなど、日常生活で使う物の名前を意識してもらいように伝えていきます(熊谷先生) 学力査定は12月に再度実施し、4月からの成長を把握。それを基に課題を洗い出して指

導を見直し、保護者面談でデータを見せながら「○○は頑張りましたが、△△が課題です」などと伝え、家庭での協力を求めている。

**家庭で出来る体験を伝え 保護者と共に子どもを育てる**

6月には「わくわくドッキリDAY」を開催し、子どもの成長に相関のある体験が何であるかを1年生の保護者に伝える。体育館に「トランプ遊び」「しりとり」「箸での豆つまみ」などのコーナーを設け、保護者と子どもが一緒にウオーケラリー形式で体験するイベントだ。木村恭子先生は次のように説明する。

「平日に行うイベントですが、9割以上の保護者が参加します。共働きなどで普段は子どもとあまりかかわれないと感じている保護者も、『少しの時間で家庭でも出来る体験がたくさんある』と気付いていただいています」

他にも、「指導方法工夫改善だより」を単元ごとに発行し、今取り組んでいる単元の内容、家庭で出来る体験を伝える。1年生担任は、連絡帳ではなく直接話した方が良いと思うことは、電話を掛けたり家庭訪問を行ったりして保護者とのつながりを深めている。

「1年生は学校教育の入り口段階です。この時期に学校に親しみを感じてもらえると、その後も学校に良い印象を抱き、協力も得られやすくなります」(木村先生)

幼稚園・保育所との交流も重視する。就学

# 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

前実態調査と学力査定の分析には、幼保の担当者も参加。互いの授業・保育も参観し、子どもの育ちについて話し合う。こうした連携により、園では小学校との接続を意識した教育が行われるようになった。例えば、園では「キリンとゾウはちがう」といった質の違いは教えるが、数は「ちがう」と教えていなかった。しかし、小学校では数も「ちがう」として教える。そのことに気付いた保育者の提案で、今では園でも数の違いを教えるようになった。

1年生の算数では習熟度別授業も行っている。1つの課題にじっくり取り組むチームと、学び合いを取り入れて発展的な問題に挑戦するチームの2つにクラスを分けている。

「1年生で習熟度別授業は難しいのではという意見もあります。しかし、1年生は長時間集中できず、全ての子どもが理解するまで待つと、待っている子どもの集中力が途切れてしまいます。そのため、習熟度別に分けていますが、チームは必ず子どもと相談して決め、固定もしていません。子どもが途中で『こっちは自分に合わない』と感じたら、相談してチームを移ります」（木村先生）

## 子どもの変化・成果

### 学力検査の結果が向上 授業姿勢にも変化が見られる

子どもの変化は明確なデータとして表れて

いる。2年生のNRT（全国標準学力検査）の偏差値と学力期待値（知能検査から算出）を見ると、近年は両方とも、取り組みが始まった02年度と比べて4〜5ポイント程度高い50前後を維持している。

「学校や家庭での働き掛けにより知的好奇心が高まって学力期待値が上昇すると共に、学力も伸びていると考えます」（熊谷先生）  
子どもの授業への姿勢も変化している。

「1年生らしくにぎやかな時もありますが、ここはというポイントでは気持ちを切り替え、教師の方を向いて集中できるようにになりました。相手の話を聞く力や姿勢が高まっているからだと思えます。友だちの発表を聞いて『こう話せば分かりやすい』と気付くなど、互いに表現力を高め合っている姿も見られます」（木村先生）

今後の課題について、校長の中川真一先生は次のように捉えている。

「保幼小連携は大きく進展しています。より長い期間で子どもを見取るため、今後はもう1つの段差である小中連携に取り組みたいです。また、担当者が異動になっても取り組みを継続させるため、学校としていかに継承するかを考えていきます」

保護者の二極化への対応も、重要な課題だ。地域の施設との連携も強化して家庭を支え、子どもを学びに向かわせる教育活動を充実させていく考えだ。

## 学校をつくり、動かすチームワーク

### 校長・副校長の役割

先生方の提案は前向きに受け止め、出来るだけ背中を押すようにしています。結果が良くても悪くても、次の方策を考える貴重な資料になるからです。学校として前進していくためには、そのようなチャレンジが不可欠だと考えています。

外部との連携の素地をつくることも校長の大切な役割です。校区にある3園の運動会や卒園式には全て出席し、地域の施設には頻りに顔を出すようにしています。

校長 中川真一先生

### ミドルリーダーの役割

まずは私が園を訪問し、先生同士が名前と顔の分かる関係をつくるのが、連携の出発点になると考えています。連携を通して、園の先生方や保護者などとのさまざまなつながりを持つことの喜びは、私自身、取り組みの原動力となっています。活動は1年生の担任が中心となって行いますが、実態調査などのデータから成果や課題を導き出して提示し、日々の教育活動を方向付けることも、私の役割だと思っています。

人権・同和教育担当 熊谷正敏先生



# 挑戦的な課題や学び合いを通し 学びに向かう力を育む

東京大大学院教育学研究科教授 秋田喜代美

生涯にわたって学んでいく力の基盤となるのが、幼児期から小学校低学年で培われる「学びに向かう力」だ。文字や数と違い、目には見えにくいこの力をいかに育んでいくべきか、東京大大学院教育学研究科の秋田喜代美教授にポイントを整理してもらった。

## ■ 保幼小接続の重要性

### 幼児期は「学びに向かう力」の土台を育む重要な時期

幼児期の体験を受け止めて子どもの力を育む上で重要になるのが、「学びに向かう力」です。学びに向かう力には、自己主張をしたり、相手の話を聞いて共に学んだり、新しい環境に適応したりといった力が含まれ、文字や数などと違い、容易に目に見えて分かるものではありません（図1、2）。しかし、生涯にわたって学び続ける力の基盤として、幼児期から小学校低学年の時期に育むことが大切です。そのため、保幼小の接続期には、幼児期に培った学びに向かう力を引き継ぎ、更に

伸ばすという視点が必要になるでしょう。

日本の小学校教育は、どちらかというと、学びに向かう力よりも生活習慣や文字、数などの習得に目が向きがちでしたが、今、世界的な流れを受けて変わりつつあります。OECDは、生涯学習の力として「自律的に行動する」「異質の他者と協働的にかかわる」「道具を状況に応じて使えるようになる」といった力が大切だと提言しています。いずれも、学びに向かう力と深くかかわっています。

特に、5・6歳での教育が人生に及ぼす影響は大きな議論的であり、接続期の教育プログラムが検討されています。例えば、イタリアのエミリア地方幼児学校では子どもの創造性の伸長に重点を置く教育アプローチを

図2

学年ごとの学習準備

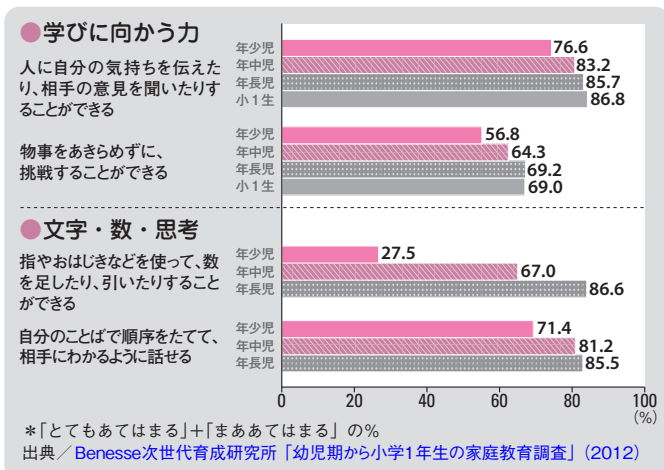
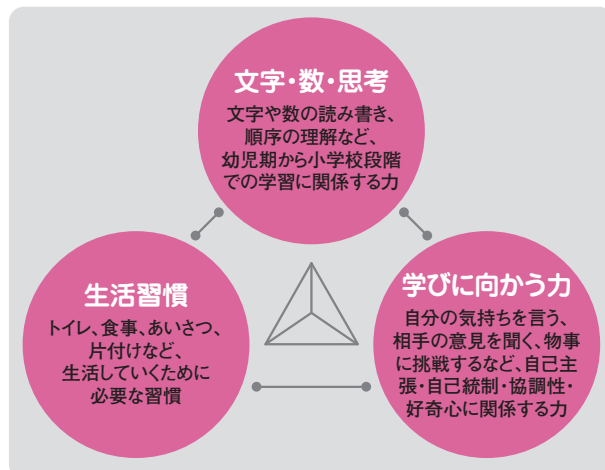


図1

幼児期に必要な学習準備



## 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導



あきた・きよみ◎東京大大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。専門は教育心理学、授業研究。立教大文学部助教授などを経て現職。主な著書に、『学びの心理学―授業をデザインする』（左右社）、『教える空間から学び合う場へ』（東洋館出版社）、『教師の言葉とコミュニケーション』（教育開発研究所）など

とっていますし、ドイツでは個人差を大切に  
した「フレキシブル・スタート」によって小  
学校教育を始めています。

世界的には、探求的な活動を重視したプロ  
ジェクト型の教育プログラムが主流となりつ  
つあります。日本でも、低学年から子どもは  
どの教科でも問題解決や探究学習が大好きで  
す。これからは、学びに向かう力を十分に育  
むことを考え、子どもがわくわくする活動を  
より充実させる必要があるでしょう。

### 1年生が伸びる指導ポイント①

#### 友だちの考えを聞いて 見方を広げていく授業を

次に、1年生で授業を通して学びに向かう

力を育むために大切なことをお話しします。

まず重要なのが、「学校で学ぶとはどのよ  
うなことから学ぶのか」を学ぶこの時期に、これからの  
時代に合った学習観を身に付けることです。  
伝統的な授業は、机の上に教科書とノートを  
置き、子どもがそれぞれ自分の頭で考えると  
いうものでした。もちろん、習得は極めて重  
要ですが、21世紀型の教育は、同時に「学び  
合う集団」として、子どもが考えを聴き合い  
ながら学習を進めることが求められます。教  
室に30人いれば30通りの見方があり、それら  
を分かち合うことによっていろいろな見方が  
出来ることを実感させるのです。

そのためには、1年生から友だちの考えを  
聞いて学んだり、それに対して異なる意見を  
言ったりと、仲間と学び合い、共に考える力

を育む必要があるでしょう。児童全員が先生  
の方を向き、話を静かに聞くのが良い学級の  
ように言われることがありますが、これは誤  
解です。本来、子どもは友だちの意見も聴こ  
うとする姿勢で授業に臨むべきだと思います。

幼児期は、「面白い、うれしい」「困った」  
など、自分の気持ちを表現することが学びに  
向かう力になるとされています。それが小学  
生になると、気持ちに加え、自分の考えを論  
理的に伝えることが求められます。それには、  
自己統制力が必要であり、特に自分の感情を  
抑えて相手の話を聞くことが重要です。自分  
の思いは言っても、異なる意見が出てくると、  
不満に思っただけでさえぎったり、聞かなく  
なったりする子どもがいますが、それでは見  
方は広がりません。異なる考えが出た時に自  
分はどう考えるのかを、きちんとさせるとよ  
いでしょう。

先生が「はい、はい」と挙手する子どもた  
ちを受け止めて認めることはもちろん大事で  
すが、そうした子どもが答えを言うだけでは、  
学級全体の考える力は伸びません。「いくつ  
も考えられるから、まずは心の中で何通りも  
言ってみよう」「友だちと考えを確認してみ  
よう」と発問をして子どもが落ち着いて考え  
て発表できる環境をつくり、子どもに主体性  
を発揮させて自信を持たせてあげてください。

そして、良い発表をした子どもだけを褒め  
るのではなく、「Aさんはうなずいてよく聞

「聞いていたよ」などと聞く側を評価する指導も効果的です。また、イエスカノーで答えられる質問だけではなく、「あなたはどうか考えるのか」など、子どもの考えが広がる開かれた質問を心掛けるとよいと思います。

### 1年生が伸びる指導ポイント②

## 子どもが学びがいを感ずる 挑戦的な課題も必要

子どもが意欲を持って取り組める「挑戦的な課題も積極的に取り入れましょう。これは、先の内容を教えることではなく、子どもが学びがいを感ずられる課題です。教育学者のロバート・ピアントは、小学校低学年の先生は、情緒的な支援に力を入れるあまり、教授内容が易すぎると指摘しています。これは学習面でも同様で、挑戦的な課題をあまり提示していないようです。答えがすぐ分かる課題では、子どもの力は十分に伸ばせません。そのような課題を繰り返せば答えを早く出せるようになるかもしれませんが、創意工夫は生まれないでしょう。

例えば、1人に教科書を読ませ、「すらすらと大きな声で読めたね」と先生が評価するだけだと、「すらすらと読む」「大きな声で読む」ことが良いとしか、子どもには伝わりません。一方、複数の子どもが音読し、「読み方はどう違ったか」と質問すれば、子どもか

らいろいろな考えが出てきますし、「自分が読む時はこうしよう」と考えます。そのように意味を考えさせることが大事なのです。文字も、「あ・い・う・え・お」と1文字ずつ教えるのではなく、2文字示して「どこが似ているかな」「他に似ている文字はあるかな」と言うと、子どもは自分で類似性を考えようとします。また、2人で1枚のワークシートに取り組めば、考えを1つにまとめるなど折り合いを付ける必要が生じます。

このように、挑戦的な課題は特別な準備をしなくてもほんの少しの工夫でつくれます。物事に挑戦する気持ちは、初めは幼児期に遊びの中で培われます。小学生になったら一歩進んで、ただ挑戦するのではなく、自らの目標を持ち、最後まで諦めずにやり遂げたり、達成までの手立てを自分で考えたりすることが求められることも意識してください。

学力が低い子どもでも、面白い課題に出会うと夢中で取り組みます。その授業を通して自信を持てれば、「学校に行きたい」という気持ちが生じます。そのような課題を用意することが、教師の大切な役割なのです。

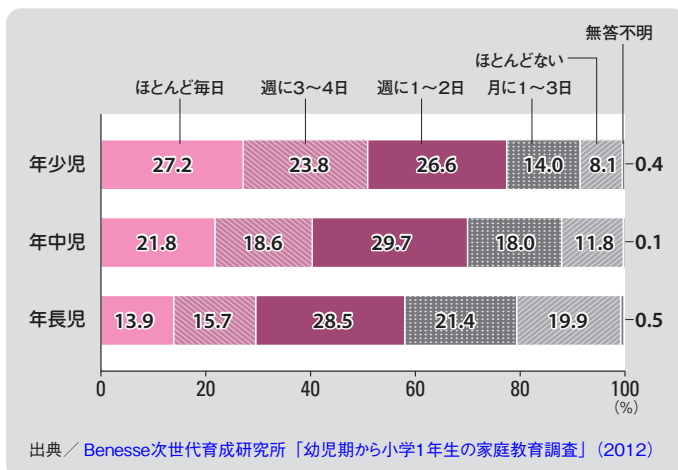
### 1年生が伸びる指導ポイント③

## 文字が読めても1・2年生には 「読み聞かせ」が大切

本に親しませることに意識的に取り組ま

せたいものです。子どもが成長するにつれて、読み聞かせの量は減っていきます。小学校に入ると、文字を学び、一人読みをさせることが多くなり、読み聞かせは更に減ると思われま(図3)。ところが、海外の調査では、1年生への家庭での読み聞かせや保護者の読書量が、PISSAの読解力に影響を与えているというデータがあります。読み聞かせは幼児期で終わりではなく、1・2年生に効果的な方法を考えた方がよいかもしれません。また、この時期に、子どもの関心は絵本から活字本へと移行しますが、物語だけではなく、科学や社会の本へと開口を広げることも大切です。

図3 親の絵本や本の読み聞かせ頻度





## 学びに向かう力を伸ばす新1年生指導

イギリスのデータでは、月に4冊の本を読むと、読書を楽しんでいると感じ、「自分は good reader（よい読み手）である」という自己評価も高まるとされています。そこでイギリス政府は、月4冊の読書を推奨しています。たくさん読むのは大変ですが、週1冊なら無理はないでしょう。学校や家庭で積極的に子どもを読書に誘うようにしてください。

### 新1年生の保護者に伝えたいこと

#### 保護者の協力が

#### 円滑な小1スタートの鍵

子どもが充実した小学校生活を送るためには、保護者の協力も欠かせません。情報提供をしっかりして、保護者との信頼関係を築くことが重要です。保護者は、日々保育者と接していた園と比べて、小学校では学校からの情報が少なくなるという感覚を持ちますし、特に第一子の入学時の不安は大きいものです。子どもだけでなく、保護者も園から小学校に移行するという意識で、1年生の4・5月はいろいろな情報を公開し、子どもが学校でどのように過ごしているかを伝えましょう。保護者の学校や教師に対する信頼感は、子どもにも影響を与えます。保護者が子どもに「よい学校や先生だね」などと言え、子どもは意欲を持ち、教育の効果が高まるからです。ですから、保護者には、子どもに「学校

は楽しい」というメッセージを伝えてもらうように協力を求めましょう。「そんなことをしたら先生に叱られるよ」といったマイナスイメージは、特に1年生にはあまり伝えないようにしてもらいましょう。

保護者が子どもに関心を持ち、自信を持たせることも心掛けてほしいことの1つです。幼児期に比べ、学校では何かと友だちと比較をされて自信を失いやすいものです。保護者が「大丈夫だよ。諦めないで取り組むことが大切なんだよ」と、自信を持たせるメッセージを送り続けることが大切になります。

忘れ物があると学校で仲間に入れないため、家庭で準備の見通しを持たせることも大切です。更に、早寝早起きをし、ゆっくり朝食を食べてしっかり栄養をとり、落ち着いて学校で過ごせるようにすることも保護者の役割であることを伝えるとよいと思います。

### 校長先生の役割

#### 保幼小連携・接続は子どもに沿った授業をつくるための学びの場

ここまで述べてきたように、学びに向かう力を育む上で接続期の教育は極めて重要ですが、保幼小連携・接続の取り組みはまだ十分に進んでいません。要因の1つは、保幼小連携・接続は低学年の担任の問題だと捉える傾向があるからかもしれません。しかし、保幼

小連携・接続は学校全体の課題です。

中・高学年になると自信の持てない子どもが出てくるようになりますが、園児と交流することで自信を付けたり、新たな良さが表出したりすることはよくあります。また、保幼小連携・接続は「縦」のつながりだけでなく、PTA、地域といった「横」の広がりもあります。幼児など異年齢の子どもとの交流をきっかけに、人とかわることが出来る子どもが育ちます。このように、学校全体をコーディネートすることが校長先生の役割であると意識していただきたいと思っています。

少子化が進み、小学校の規模が小さくなりつつあります。そこで、異なる視点から子どもを見てくれる存在として、幼稚園や保育所の先生にサポーターになってもらってはいかでしょうか。幼保の先生は「その子どもにとってその活動はどのような意味があるか」という点で子どもの姿を捉え物語る力に優れています。授業を参観してもらえば、指導のねらいや技術とはまた違った観点で子どもの育ちを見てくれるでしょう。そのような活動の推進も校長先生にお願いしたいと思います。

保幼小連携・接続は、最初はどうもいかにいかもありません。「子どものために」と思って少しずつ進めるうちに、つながりが生まれていきます。子どもに沿った授業をつくるための重要な学びの場となると考え、ぜひ取り組みを深めていただきたいと思っています。



## 今回のテーマ

# 研修を授業改善につなげる工夫

授業研究の目的は、日々の授業を改善することにある。

しかし、指導案の作成や教材の準備などには手間や時間が掛かり、ともすれば研究自体が目的化してしまふことになりかねない。今号では、教師の負担を少なくしながら、日常的な授業の改善につなげている研修のあり方を紹介する。

## 事例 千葉県市原市立京葉小学校

# 限られた時間の中で日常的にノウハウを共有

## 指導案の略案化で 教師の負担を軽減

市原市立京葉小学校は、「日常の授業改善」を合言葉に校内研修を行っている(図1)。全担任22人が年1回以上研究授業を行い、事後の協議会で成果や課題を共有するねらいを、鎌田正男校長は次のように話す。

「教師は1年で850時間以上の授業を行います。1コマの授業で少しの工夫をし、それを互いに見合っ  
ていけば、1年間経った時に大きな成長が期待できます」

研究授業の教科は各自で決められ

るが、研修の焦点を絞るため、「学習意欲の向上」「基礎基本の習得」「言語活動の重視」のいずれかの工夫を盛り込む。授業者は指導案を抜粋した略案(図2)を作り、学年会で検討した上で研究授業に臨む。

「詳細な指導案や大掛かりな教材を用意すると、研修自体が目的化し、日常の授業改善につながりにくいものです。研修の成果を毎日の授業に生かすためには、手軽にノウハウを共有できることが大切だと考え、先生方には手の込んだ工夫よりも、すくなく生かせるような工夫を提案して

ほしいと伝えていきます」(鎌田校長)

低学年、中学年、高学年に分かれて行う事後の協議会は原則30分以内とし、授業者の工夫が効果的だったかどうかを振り返る(写真)。参観のみで協議会に参加しない教師は、感想やアドバイスを「コメントカード」に記入し、授業者に渡す。

全員が年1回以上の研究授業を行うことに対しては、当初、教師の間でも戸惑いがあったが、鎌田校長の方針が浸透するにつれて、多くの教師が前向きに取り組むようになったと、研究主任の近藤宏子先生は話す。

「得意な教科ばかりでなく、苦手な教科にも取り組む先生が増え、意欲の高まりを感じます。日々の工夫を重ね、研修での気付きを反映した結果、自分の授業が良くなったと感じているからこそだと思います」

鎌田校長は、今後について次のように話す。

「子どもに自ら学ぶ姿勢を求める以上、教師自身が学び合う集団にならなければなりません。管理職の助けがなくても、先生方が自立的に授業改善に取り組もうとする意識を根付かせたいと思っています」

## 図1 校内研修のポイント

- ①実施教科の自由化**…教師の内発的な参加を促すため、各自が実施する研究授業の教科を自由とし、教師が自らの課題意識や得意、不得意に応じて決められるようにしている。調整はしないが、結果的に分散し、小学校教師に必要な全ての教科で研修が行われている
- ②工夫ポイントの共通化**…児童の課題を基に設定した「学習意欲の向上」「基礎基本の習得」「言語活動の重視」の3つの工夫のいずれかを授業に盛り込む（算数一意欲、理科一言語など）
- ③指導案の略案化**…基本的にA4判用紙表裏の1枚の略案とし、本時の位置付けと目標、工夫点、場面展開、時間配分を明記する
- ④事前・事後研修の充実**…研究授業の前には学年会で指導案を検討。事後には、低、中、高の2学年ずつで集まり、研究授業の振り返りを行う。学年を中心に日常的に接する機会が多く、課題意識も近い教師間で行うため、活発な意見交換が可能になる

\* 同校の資料を基に編集部で作成

## 図2 指導案の略案(1年生 算数)

1年2組 算数学習指導案(略案)

指導者  
平成24年11月 27日4校時

- 単元名 ひきざん(2)
- 単元の目標  
(事例) - (1位数)で、繰り下がりのある場合の計算の仕方を理解し、計算できる。
- 本時の指導 (2/12)

(1) 本時の位置  
本単元までに、児童は、繰り下がりのないひき算と繰り上がりのある足し算を学習してきた。繰り上がりのある足し算では、10の補数を意識して、加数を分解してたず方法を学んできた。ほとんどの児童が、この方法を理解し、できるようになってきたが、十分に理解できていない子が数名いる。  
本単元では、繰り下がりのあるひき算の仕方を学習する。本時は、その1時間目なので、どのように計算したら答えが出るのかまず自分なりの方法でやってみる。数えひき、減加法、減減法などいろいろなやりかたが出てきたらその中から手際の良い計算の仕方を見つけさせる。  
次時は、一番手際良くできた減加法の手順を再度確認し、計算の仕方を唱えさせるようにし、計算技能の定着を図る。

(2) 本時の目標  
(事例) - (1位数)で繰り下がりのあるひき算について、計算方法を見つけることができる。

(3) 本時で工夫していること(基礎基本の定着)  
本学年の児童は、繰り下がりのないひき算は、ほぼできるようになったが、数回ブロックを使わないとはっきりしない子や数えひきをしている子が数名いる。また、繰り上がりのあるたし算もほとんどの児童が数回ブロックを使ったり、図を書いたり、サクランボを書いたりして10の補数を使って計算することが一応できるようになったが、時間がつつと忘れてしまっ、支援の必要な子も数名いる。  
本時では、18-9の計算を数えひきでも減加法でも、減減法でもまず自分のできる方法でやってみる。そして、自分の見つけた方法を数回ブロックや図や言葉を使って説明できるようにしたい。発表し合ったり、友達ややり方を実際に行ってみたりする活動を通して、減加法の手際よさを感じ取らせるようにしたい。数回ブロックを移動させたり図に表す活動をしてみて減加法が確かに速くて簡単だと納得できれば、今後使えるようになるだろうと考える。

(4) 本時の展開

| 時配 | 学習活動と内容     | 指導の方法○と評価◎                    |
|----|-------------|-------------------------------|
| 5  | 1. 素材を提示する。 | ◎素材から、わかっていること、聞いていることを発表させる。 |

## 写真 事後の協議会(1年生 算数)



教師の年齢構成が20~30代前半と50代に二極化する中、若手教師がベテラン教師に対して、積極的に意見を述べる場が何度も見られた。時に厳しい意見の応酬になるが、各自が互いの意見を認め合いながら、授業改善へとつなげている

18-9は、どのようにいひさんすればよいだろう

|    |  |  |
|----|--|--|
| 10 | 4. 自力解決をする。<br>はじめに数回ブロックを13こ置く。<br>考えられる取り方<br>①  13のまとまりからとる。<br>②  10のまとまりからとる。<br>③  10のまとまりからとる。<br>④  10のまとまりからとる。<br>⑤  10のまとまりからとる。<br>⑥  10のまとまりからとる。<br>⑦  10のまとまりからとる。<br>⑧  10のまとまりからとる。<br>⑨  10のまとまりからとる。<br>⑩  10のまとまりからとる。<br>⑪  10のまとまりからとる。<br>⑫  10のまとまりからとる。<br>⑬  10のまとまりからとる。<br>⑭  10のまとまりからとる。<br>⑮  10のまとまりからとる。<br>⑯  10のまとまりからとる。<br>⑰  10のまとまりからとる。<br>⑱  10のまとまりからとる。<br>⑲  10のまとまりからとる。<br>⑳  10のまとまりからとる。<br>㉑  10のまとまりからとる。<br>㉒  10のまとまりからとる。<br>㉓  10のまとまりからとる。<br>㉔  10のまとまりからとる。<br>㉕  10のまとまりからとる。<br>㉖  10のまとまりからとる。<br>㉗  10のまとまりからとる。<br>㉘  10のまとまりからとる。<br>㉙  10のまとまりからとる。<br>㉚  10のまとまりからとる。<br>㉛  10のまとまりからとる。<br>㉜  10のまとまりからとる。<br>㉝  10のまとまりからとる。<br>㉞  10のまとまりからとる。<br>㉟  10のまとまりからとる。<br>㊱  10のまとまりからとる。<br>㊲  10のまとまりからとる。<br>㊳  10のまとまりからとる。<br>㊴  10のまとまりからとる。<br>㊵  10のまとまりからとる。<br>㊶  10のまとまりからとる。<br>㊷  10のまとまりからとる。<br>㊸  10のまとまりからとる。<br>㊹  10のまとまりからとる。<br>㊺  10のまとまりからとる。<br>㊻  10のまとまりからとる。<br>㊼  10のまとまりからとる。<br>㊽  10のまとまりからとる。<br>㊾  10のまとまりからとる。<br>㊿  10のまとまりからとる。 | ◎数回ブロックを用いて、はじめの数を10のまとまりとばらばらの数回ブロックで表すようにする。<br>◎13個の数回ブロックのどこから9個取ったらいかに考えるようにする。<br>◎数回ブロックを操作して、計算方法を見つけることができる。<br>◎立派な児童には、説明ができるように発表ボードに図に書いたり、言葉で表現したりさせる。 |
| 10 | 5. どのように計算したか発表する。<br>・どのように9個取ったかを発表し、考えを話しあう。<br>①の方法は、10から9を取るの、1回でばつとれるから、簡単で速くてわかりやすい。  | ◎数回ブロックや言葉を使って計算の仕方を説明させる。<br>◎減加法でない方法でした児童にも、減加法の操作を経験させ、よさを実感させる。   |

指導案の略案はA4判用紙の表裏両面から成る。「本時で工夫していること」を必ず入れ、工夫ポイントには参観者に分かりやすいように下線を引く。全てを参観できない教師は、この略案を基に工夫ポイントの部分が行われる時間帯だけを見学できる \* 同校の資料を抜粋して掲載

## 千葉県市原市立京葉小学校



◎1967(昭和42)年開校。基礎・基本の向上と学び合い、高め合う授業実践を目指す。東京湾に面した学区ならではの「海苔づくり」体験学習をはじめ、親善相撲大会、敬老会など、地域との連携も重視している。

校長 鎌田正男先生  
児童数 648人 学級数 22学級(うち特別支援学級1) 教員数 29人  
所在地 〒290-0038 千葉県市原市五井西3-9-2  
TEL 0436-21-1725  
URL <http://www.ichihara-chb.ed.jp/keiyo-e/>  
公開研究会 未定



近藤宏子  
市原市立京葉小学校研究主任  
「先生方が話し合う場面では、ベテラン、若手を問わず、先生方が話しやすい雰囲気づくりを心掛けている」

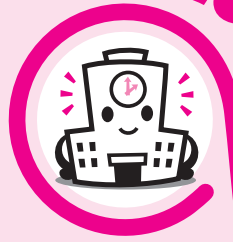


鎌田正男  
市原市立京葉小学校校長  
「まだ、まさおが、互いに学び合い、高め合うためには、厳しい意見をプラスに受け止めることが大切だと、日々先生方に伝えている」

授業研究に学校全体で主体的に取り組むために「心掛けていこう」と



# つながる



## 学校と家庭の学び

# 保護者からの声掛けを増やし 子どもの表現力を伸ばす

### 奈良県大淀町立大淀希望ヶ丘小学校

大淀町立大淀希望ヶ丘小学校では、子どものコミュニケーション能力を伸ばすための取り組みに力を入れている。保護者にも、「週1回、子どもと一緒に風呂に入る」などの4つの活動を提案し、子どもと話をする機会を増やしてほしいと協力を呼び掛けた。その結果、言葉による子どもの表現力が高まっているという。

### 家庭での会話を増やす

#### 「家庭と学校協働プロジェクト」

大淀町立大淀希望ヶ丘小学校は、奈良県中西部の住宅地に位置する。子どもは人懐こく元気で、友だち同士の仲も良い。ただ、コミュニケーションには課題があり、「好き」「要らない」といった単語を並べるだけで、主語・述語がそろった文を話さない傾向が見られた。友だちと意思をうまく疎通できずに、ささいなことが原因で相手を傷付けるようなこともあったという。

そこで、数年前に、子どもの言葉による表現力を伸ばすための活動に力を入れ始めた。授業で言語活動に取り組みだけでなく、家庭にも協力を呼び掛けている。そのねらいを、春名久雄校長は次のように話す。

「大人が先回りして子どもの言いたいことをくみ取ってしまうため、子どもの語いが貧弱になってしまっているのだと思います。そこで、家庭で会話をする機会や内容を充実させ、しっかりと言葉のキャッチボールが出来るようにしたいと考えました」  
2009年度には、「家庭と学校

協働プロジェクト」を始めた。これは、保護者と子どものコミュニケーションを増やそうという取り組みで、次の4つの柱がある。

#### ①親子でお風呂入る

週に1回、保護者が子どもと一緒に風呂に入る。

#### ②食事時の会話を楽しもう

家族がそろって食事をする機会を多くし、食事中はテレビを消す。

#### ③本読み時間を増やそう

家庭で一緒に本を読む時間を増やす。保護者が読み聞かせをする、同じ時間にそれぞれが別の本を読む

ど、読書のスタイルは問わない。

#### ④家の仕事をしっかりしよう

子どもが家庭で役割を担えるように、家庭のルールをつくる。子どもに責任感を持たせようと、「手伝い」ではなく「仕事」と呼ぶことにした。プロジェクトを始めた当初から、学校は保護者の理解を得ようと、PTAの会合や学校だよりなどで4つの活動の目的を繰り返し説明した。その結果、12年度には、4つのうちのいずれかに取り組む家庭が8割以上を占めるようになった。  
山本勝徳教頭は、家庭との連携に

は学校から積極的に情報発信していくことが不可欠だと話す。

「学校がプロジェクトを通して子どもにどのような力を付けさせたいかを常に伝えてこそ、保護者の信頼を得られます。そうすれば、取り組みの意図に共感し、協力してくれる保護者も増えると考えています」

## 「GO!GO!シート」を再構成 子どもの振り返り活動に活用

12年度は、子どもが自分の行動を振り返り、今後の改善点などを言葉で表現する活動を始めた。月1回、「振り返りカード」に、「掃除をしつかりする」などの毎月の学校目標をどの程度達成できたか、達成できていなければその理由などを書く。

6年生では、長期間の振り返りにも取り組もうと、「GO!GO!シート」(図1)を活用している。これは、子ども自身が5年生の1年間を振り返り、6年生の目標を決めるためのシートで、表に「5年生のふり返し」「生活・お手伝い」「勉強」「運動」「読書」について頑張ったこと、裏に「6年生に向けてのがんばり宣言」などを記入する。

「GO!GO!シート」は4月に

子どもが書き、担任が回収。当初は3月の卒業時まで保管するつもりだったが、あえて11月に、いったん子どもに返却した。この理由を6学年担任の片山純先生は次のように話す。

「自分で立てた目標であっても、次第に忘れてしまうものです。自分がどのような気持ちで6年生になったのかを、改めて思い出してほしいと思いました。運動会や修学旅行などの大きな行事が終わった直後である11月は、子どもの気が抜けやすい時期です。そうした時期に、年度当初に立てた目標を見直し、出来たことを認めたり、出来ていない理由を考えたりのことで、子どものやる気を高めたいと考えました」

ここでは、片山先生が作成した「GO!GO!振り返りカード」(P.30 図2)を新たに配布。子どもは、4月から11月までに「がんばったこと」「もう少しがんばりたいと思うこと」「卒業に向けてのがんばり宣言」、4月に立てた目標の現在までの達成度合いなどを記入する。

「自分の目標をただ再確認するだけでなく、卒業するま

### 奈良県大淀町立大淀希望ヶ丘小学校

©2006(平成18)年、3つの小学校が統合して開校。公民館での通学合宿、読書ボランティアによる読み聞かせなど、地域と連携した取り組みに力を入れている。

**校長** 春名久雄先生  
**児童数** 345人  
**学級数** 17学級(うち特別支援学級5)  
**所在地** 〒639-3125 奈良県吉野郡大淀町北野 54-1  
**TEL** 0746-32-1290  
**URL** <http://www.town.oyodo.nara.jp/shisetsu/school/kibou.html>



大淀町立大淀希望ヶ丘小学校校長

#### 春名久雄

はるな・ひさお

「努力する喜びを知る子ども、いわば一生懸命を楽しめる子どもを育てたい」



大淀町立大淀希望ヶ丘小学校教頭

#### 山本勝徳

やまもと・かつのり

「子ども、保護者、地域の人たちと、常に誠心誠意向き合っていきたい」



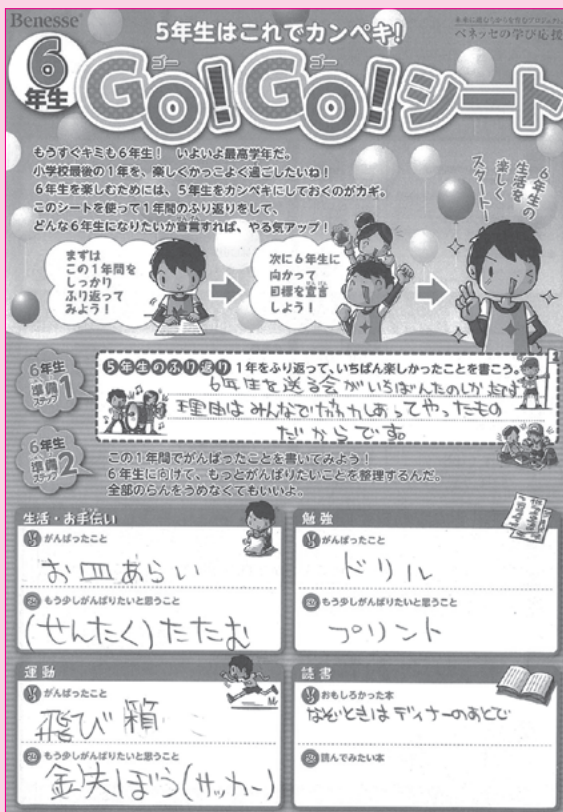
大淀町立大淀希望ヶ丘小学校

#### 片山 純

かたやま・じゅん

6学年担任。「子どもの気持ちを思いやり、内に秘めた長所を伸ばせる教師でありたい」

図1 GO!GO!シート(6年生用 表) ※「ベネッセの学び応援」が無償提供

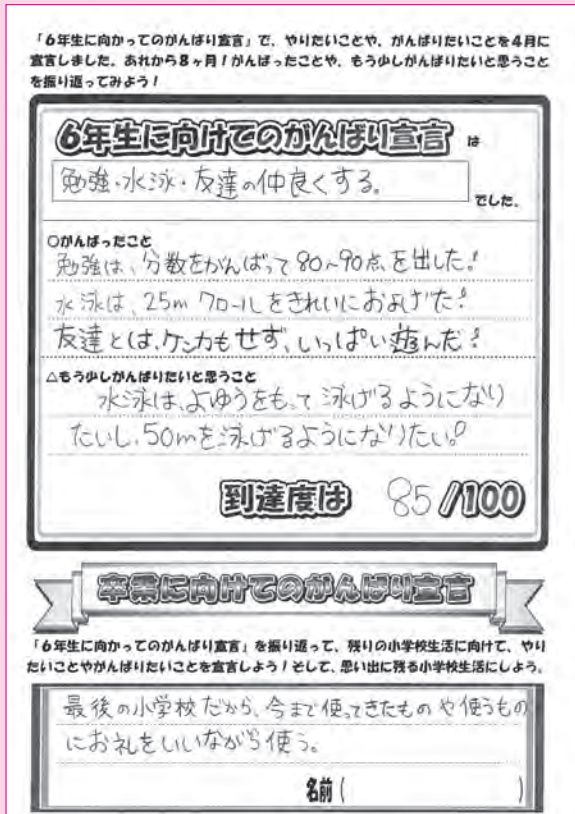


\*同校の資料をそのまま掲載

\*図は2011年度にご提供のものです。2012年度のものは、異なる名称・デザインとなります

本シートは、5年生の終わりに、子どもが6年生になってからの自分の目標を決めることを意図して提供していたが、同校では、これをアレンジして活用。6年生が4月にこれからの1年間の目標を決めるために用いた

図2 GO!GO!振り返りカード(裏) ※片山先生が作成



\*同校の資料からイラストを削除して掲載

「GO!GO!シート」を書いてから7か月後、「GO!GO!シート」に書いた目標がどの程度達成できているかを子ども自身が振り返り、卒業までの目標を改めて立てるためのカード。表裏両面から成り、表には「生活・お手伝い」「勉強」「運動」「読書」について自分の頑張りを評価する欄、裏には「卒業に向けてのがんばり宣言」を書く欄などがある

での期間をどのように過ごせば達成できるかを思い描かせようと考えました。下級生への気配りなど、自分の枠を広げる努力をして、小学校生活の最後の期間を充実させてほしいという思いもあります(片山先生)

「GO!GO!振り返りカード」は「GO!GO!シート」と一緒に担任が回収。3月に小学校の集大成となる振り返りを行う予定だ。

### 子どものモチベーションは保護者の声掛けで高まる

子どもの振り返り活動でも家庭との連携を重視。「GO!GO!シート」の実施に当たっては、学級通信などで保護者に声掛けを呼び掛けた。「保護者から頑張りを認められれば、子どもの自己肯定感が高まり、おのずと目標に対するモチベーション

ンも上がると思います。1年間という長い期間の目標を達成させるためにも、家庭での協力をお願いしました(片山先生)

保護者からの働き掛けもあり、11月時点で目標を5〜8割達成した子どもが多かった。目標達成度が低い子どもも、今の自分と照らし合わせて、卒業に向けての目標を立てた。

子どもの言葉による表現力にも変化が見られる。自分が頑張ったことについて、4月の「GO!GO!シート」では「水泳」などと単語だけの記述だったものが、11月の「GO!GO!振り返りカード」では、「25mをクロールできれいに泳げるようになった」というように、頑張った成果を自分の言葉で表現できるようになった。

春名校長は、今後について次のように話す。

「学校も保護者も、子どもの力を伸ばしたいと思っています。目指すものは同じなのですから、双方が力を合わせて取り組めば、成果は大きくなるはず。これからも保護者との信頼関係を深め、学校と家庭の両面から子どもの成長を支えていきたいと思っています」

## 2~3月の進級・進学前に授業や保護者会で使える教材、冊子を無料でご提供します

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2011年度は、のべ約15,000校から約110万冊もの申し込みをいただきました。

2012年度は、各学年個別に、1年間を振り返って次の学年への意欲を向上させる冊子などを無料でご提供いたします。1年生向けには、保護者会でご利用いただける保護者の方向けの情報をご用意いたしました。ただ今、お申し込み受付中です。詳しくは本誌同送のチラシをご覧ください。ぜひ貴校の教育活動にお役立てください。

学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ <http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>

未来に進むちからを育むプロジェクト。  
ベネッセの学び応援

お申し込み  
締め切り

2013年  
2/28

木

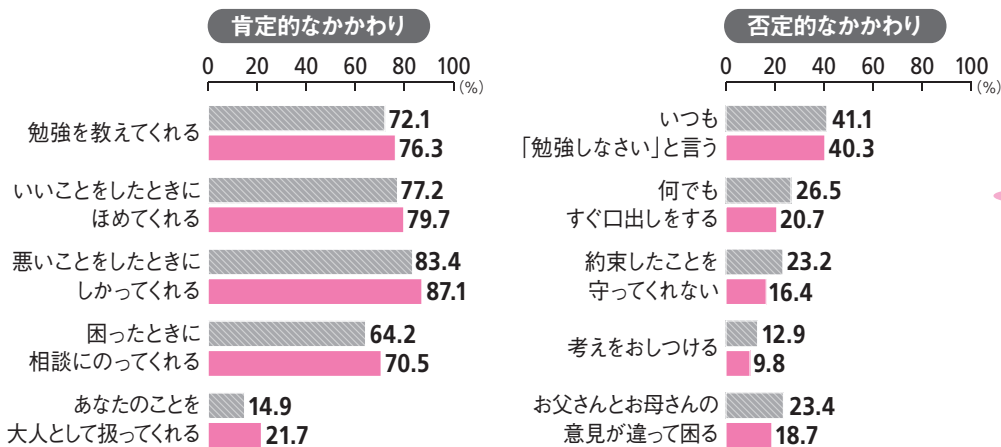




## 肯定的なかかわりが増えて、親子関係は良好化

親とのかかわり(回答:小学4年生~小学6年生)

■ 2004年  
■ 2009年



経年変化を見ると、親子関係は「勉強を教えてくれる」などの肯定的なかかわりが増え、「いつも『勉強しなさい』と言う」などの強制や干渉といった否定的なかかわりが減っている。しつけ面でも、「悪いことをしたときにしかってくれる」が「口出し」はしないという、子どもを尊重する様子が見られる

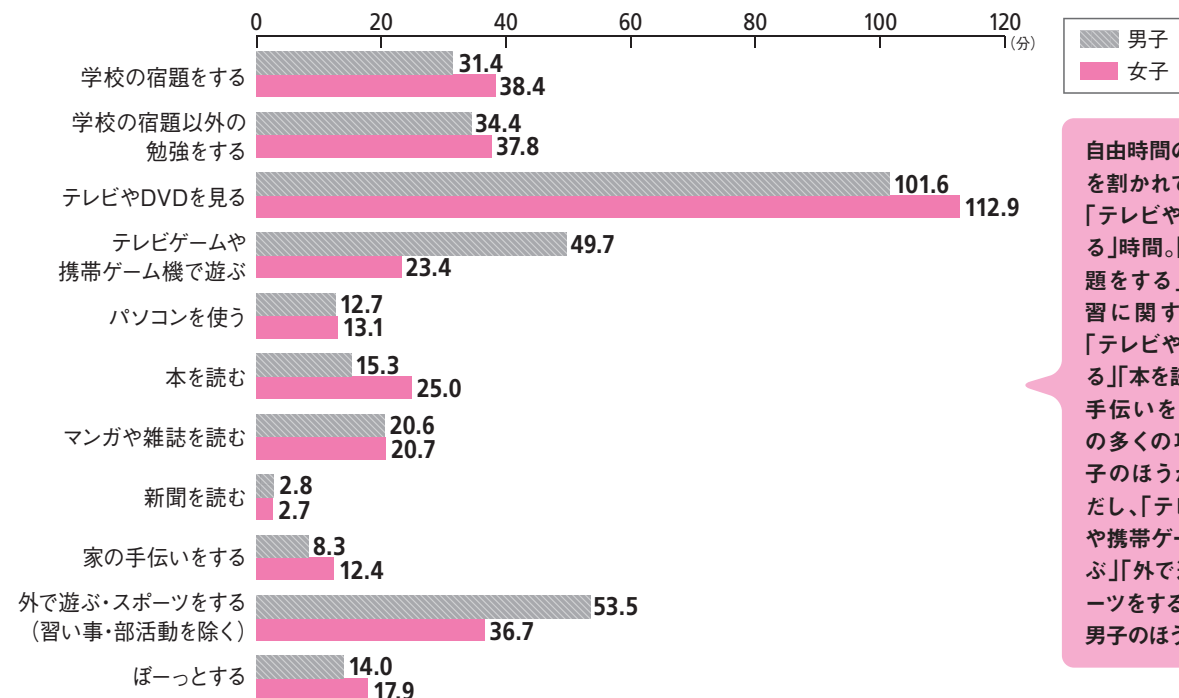
注1) 複数回答

出典: Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2009)

調査時期は、第1回(2004年調査)は2004年11月~12月、第2回(2009年調査)は2009年8月~10月、調査対象は、第1回は全国の小学4年生~高校2年生14,841人(うち小学生4,240人)、第2回は全国の小学4年生~高校2年生13,797人(うち小学生3,561人)、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

## 自由時間の使い方は、男女で異なる

自由時間活動にあてる時間(1日あたりの平均時間)(回答:小学5年生・小学6年生)



自由時間のうち、多くを割かれているのは「テレビやDVDを見る」時間。「学校の宿題をする」などの学習に関する項目や「テレビやDVDを見る」「本を読む」「家の手伝いをする」などの多くの項目で、女子のほうが長い。ただし、「テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ」「外で遊ぶ・スポーツをする」時間は、男子のほうが長い

注1) 平均時間は、自由時間活動それぞれについて、「しない」を0分、「4時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した

出典: Benesse教育研究開発センター「放課後の生活時間調査」(2009)

調査時期は、2008年11月、調査対象は全国の小学5年生~高校2年生8,017人(うち小学生2,603人)、調査方法は郵送法による自記式質問紙調査



上記の関連データはコチラ!  
<http://benesse.jp/berd/>  
\*「調査・研究データ」コーナーをご覧ください

## 2012 Vol.3特集「授業が活きるICT」へのご意見

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

\*「VIEW21」小学版のバックナンバーは「Benesse教育研究開発センター」ウェブサイト (<http://benesse.jp/berd/>)  
でご覧いただけます。

◎勤務校では、予算の関係でICTを活用した授業の研究と実践がほとんど行われていません。そのため、ICTの教育的活用に関心がありませんでしたが、総論の内容は全般的に納得でき、今後の学校経営の参考になりました。特に、ICTの活用におけるメリットとデメリットが分かりやすく説明されていました。子どもにとって情報活用能力は必要不可欠なものであり、系統的に取り組んでいければと考えています。 [愛知県/K小学校/S・S]

◎ICTは難しいものというイメージを持っている先生方が少なくありません。しかし、ICTを効果的に活用していくことで、今までなかなか説明しにくかったことや子どもがなかなか理解できなかったことを視覚的に伝えられるようになります。特に、表現活動の「書く活動」では、黒板上で理解させるよりは、効果的だと感じました。

[福島県/M小学校/N・K]

◎ICTの活用や情報活用能力の育成に関心はありますが、自治体による整備のレベルの違いが大きく、だれもが気軽に便利に使えるという状況にはなっていないのが現実です。その中で、総社市立総社西小学校のICT支援員の存在に興味をひかれました。機器の充実と共に人的サ

ポートは絶対に必要です。機器を用意したから現場の人々で研究して使ってくれと言われても、使えるようになるまでの負担を考えれば、結果的には遠のいてしまうからです。

[千葉県/T小学校/K・T]

◎「私を育てたあの時代」の西山義則校長先生が話されていた「校長と自由に話せる雰囲気が学校を活性化させる」に大いに共感しました。校長だけでなく、教職員全員で子どもを育てるためには、校長を含めた管理職と先生との自由な会話を学校の中にかにつくるかが、大きな鍵になるように思います。

[愛知県/E小学校/I・K]

◎校長自ら授業実践する姿が、この頃よく見られます。「パワーアップ! 授業研究」で登場した北名古屋市立師勝北小学校の森享校長が言われた「私自身の行動によって先生方に範を示したい」は、教育者としての原点を問い直す意味で刺激を受けました。

[鹿児島県/I小学校/O・H]

◎「つながる学校と家庭の学び」の美祿市立秋吉小学校の記事を読み、学校は地域に立脚し、地域と共に伝統をつくり、地域のために共に歩む存在だと改めて感じました。「絆」の大切さを痛感しました。

[北海道/M小学校/K・I]

ご両親を亡くされた  
お子さま対象

## ベネッセ 通信教育奨学制度のご案内

ベネッセコーポレーションでは、震災や事故などによりご両親を亡くされた日本全国のお子さまに、無償で教材をお届けする「ベネッセ 通信教育奨学制度」を2011年に新設いたしました。お子さまの高校卒業までの家庭学習を、ベネッセの通信教育サービスが全面的に支援してまいります。貴校や周囲にご両親を亡くされたお子さまがいらっしゃいましたら、本制度をお知らせいただけますと幸いです。

◎詳しいご案内は下記サイトをご確認ください

<http://www.benesse.co.jp/mirai/shogaku/>

◎お問い合わせは講座の電話窓口までお願いします  
進研ゼミ小学講座 0120-977-377 (通話料無料)

\*一部のIP電話からは042-679-8563へおかけください (通話料がかかります)

\*受付時間10:00～20:00 (日曜・祝日・年末年始を除く)

## 未来を生きる 子どもたちのためにできること

教育情報誌『VIEW21』が発刊当初から  
変わらず貫き続けている思いです。

日本の学校教育は先生方の「熱意」が支えている。

だからこそ、我々も全力で

先生方に役立つ情報を発信することにこだわりたい。

『VIEW21』は、これからも

全国の先生方と共に子どもたちの未来を見つめ、  
今と未来を結ぶ教育を提案していきます。

Benesse® 教育研究開発センター 『VIEW21』編集部

## 編集後記

今号の特集の取材を通じて、保幼小接続は、いわゆる「小1プロブレム」の解消だけではなく、前向きに学び続ける姿勢を育むことが、子どもの豊かな人生につながるという共通理解の下に取り組む必要があることを教えていただきました。新1年生の保護者説明会などでお話をされる際のご参考にしていただき、貴校と家庭の連携を進める一助になれば幸いです。(杉田)

VIEW21 小学版 2012 Vol.4

2013年2月19日発行 / 通巻第35号

発行人 新井健一  
編集人 谷山和成  
発行所 (株)ベネッセコーポレーション

印刷製本 凸版印刷(株)  
編集協力 (有)ペンダコ  
執筆協力 二宮良太、中丸満  
撮影協力 荒川潤、川上一生、高橋龍次  
イラスト協力 浅沼リカ、幸剛

◎お問い合わせ先

VIEW21編集部  
〒206-8686  
東京都多摩市落合1-34  
電話 042-311-3391

色とりどりの学びの情景

## 共に遊び、共に学ぶ



表紙の学校 群馬県前橋市立白川小学校



1・2年生が一緒に行ったかるたの練習では、皆、真剣。2年生に負けじと1年生も札取りに大奮闘

運動会で1～3年生が披露した民舞「荒馬」では、3年生が指導役となって練習に励んだ



2年生が1年生のいいなと思ったところをカードに書いてプレゼント



地域の人でもある用務技士の方に指導を受けながら、1・2年生が一緒にさつまいもを育てた。収穫後は焼き芋にし、教職員にもふるまわれた

赤城山の麓に位置する前橋市立白川小学校。隣接する馬事公苑で馬に乗ったり、冬山体験で地域の人からスキーを教わったりと、地域の支援を得ながら、豊かな自然を生かした体験学習を多く取り入れる。

1学年20人ほどの小規模校であるため、それらの活動の多くは異学年混合で行う。例えば、遠足などは低・中・高のそれぞれ2学年合同。1・2年生は混成班で近くの公園まで歩いて行き、班ごとに弁当を食

べて遊ぶ。運動会では1～3年生は民舞、4～6年生は組み体操と一緒に練習し、息の合った演技を披露した。もちろん、子どもたちは普段から仲良し。昼休みにはかけっこをしたりなわとびをしたりと遊ぶ。

1・2年生合同のかるた大会の練習で、正座を崩した1年生に、2年生がすかさず注意した。上級生と共に学び、遊んだ経験は、自分が上級生になった時の自覚となり、思いやりの心を育てている。

過去1年間の  
特集テーマ

Back Number

2012

Vol.3 授業が活きるICT

Vol.2 子どもが伸びる学習評価

Vol.1 新課程 2年目の学校づくり—未来を生きる力を育むために

2011

Vol.4 小中接続—子どもの学びを中学校へつなぐ

すべての記事を、ウェブサイトからPDFでダウンロードいただけます

<http://benesse.jp/berd/> または  で

2013年度 Vol.1 は 2013年5月中旬発行(予定)です